（様式第10）

富大病企　第　177　号
令和　5 年　10 月　5 日

厚生労働大臣　殿

開設者名　国立大学法人富山大学
学長　齋藤　滋

国立大学法人富山大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1　開設者の住所及び氏名

住所	〒930-8555　富山県富山市五福3190番地
氏名	国立大学法人富山大学

（注）　開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2　名称

国立大学法人富山大学附属病院

3　所在の場所

〒930-0194　富山県富山市杉谷2630番地
電話（　076　）　434　ー　2315

4　診療科名

4－1　標榜する診療科名の区分

○	1	医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2	医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

（注）　上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2　標榜している診療科名

(1)内科

内科						有	
内科と組み合わせた診療科名等							
○	1呼吸器内科	○	2消化器内科	○	3循環器内科		4腎臓内科
○	5神経内科	○	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
○	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							
腎臓内科，内分泌内科，代謝内科，アレルギー科，リウマチ科については，それぞれ他の診療科において医療を提供している。							

（注）　1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

（2）外科

外科	有

外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
内分泌外科については，他の診療科において医療を提供している。							

（注）　1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

（3）その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科		12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

（注）　標榜している診療科名に○印を付けること。

（4）歯科

歯科	有

歯科と組み合わせた診療科名					
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科
歯科の診療体制					

（注）　1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

（5）（1）～（4）以外でその他に標榜している診療科名

1	漢方内科	2	病理診断科	3	形成外科	4	美容外科	5	リハビリテーション科
6	小児皮膚科	7	小児神経外科	8	小児眼科	9	小児耳鼻咽喉科	10	小児形成外科
11	小児泌尿器科	12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

（注）　標榜している診療科名について記入すること。

5　病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
43	3			566	612

（単位：床）

6　医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	419	41	433.7
歯科医師	13	9	15.8
薬剤師	46	0	46
保健師	0	0	0
助産師	44	2	44.7
看護師	699	8	702.8
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	4	1	4.7
管理栄養士	16	0	16

職種	員数
看護補助者	41.6
理学療法士	19
作業療法士	8
視能訓練士	6
義肢装具士	0
臨床工学士	25
栄養士	8.7
歯科技工士	0
診療放射線技師	41.7

職種		員数
診療エックス線技師		0
臨床検査	臨床検査技師	52
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師		0
医療社会事業従事者		0
その他の技術員		48.1
事務職員		144.7
その他の職員		22.2

（注）　1　報告書を提出する年度の10月１日現在の員数を記入すること。
2　栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3　「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7　専門の医師数

専門医名	人数（人）	専門医名	人数（人）
総合内科専門医	58	眼科専門医	8
外科専門医	32	耳鼻咽喉科専門医	9
精神科専門医	9	放射線科専門医	12
小児科専門医	23	脳神経外科専門医	12
皮膚科専門医	8	整形外科専門医	13
泌尿器科専門医	7	麻酔科専門医	17
産婦人科専門医	17	救急科専門医	6
		合計	231

（注）　1　報告書を提出する年度の10月１日現在の員数を記入すること。
2　人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8　管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名　（　林　篤志　）　任命年月日　平成　31　年　4　月　1 日

平成30年４月１日から、医療安全管理委員会構成員。

9　前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	436.1　人	7.7　人	443.8　人
1日当たり平均外来患者数	1194.34　人	74.66　人	1269　人
1日当たり平均調剤数	397.1　剤		
必要医師数	114.2　人		
必要歯科医師数	5　人		
必要薬剤師数	15　人		
必要（准）看護師数	265　人		

（注）　1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2　入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3　外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4　調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5　必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10　施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	459.17 ㎡	鉄筋コンクリート	病床数	25 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	［固定式の場合］	床面積	298.61 ㎡	病床数	27 床	
	［移動式の場合］	台数	台			
医薬品情報管理室	［専用室の場合］	床面積	36 ㎡			
	［共用室の場合］	共用する室名				
化学検査室	432 ㎡	鉄筋コンクリート	（主な設備）	臨床検査自動化システム、血液ガス分析統合管理システムなど		
細菌検査室	96 ㎡	鉄筋コンクリート	（主な設備）	細菌検査システム、マイクロスキャンWalkAway96Siリファージュなど		
病理検査室	96 ㎡	鉄筋コンクリート	（主な設備）	病理診断支援システム、バーチャルスライドシステムなど		
病理解剖室	113 ㎡	鉄筋コンクリート	（主な設備）	感染症対策解剖台システム、強制排気切出し台など		
研究室	7463 ㎡	鉄筋コンクリート	（主な設備）	細胞分析分取装置、電子線照射装置など		
講義室	358 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	2 室	収容定員	388 人
図書室	3285 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	1 室	蔵書数	約21万 冊程度

（注）　1　主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2　主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11　紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	81.2 %	逆紹介率	69.8 %
算出根拠	A:紹介患者の数	10837	人
	B:他の病院又は診療所に紹介した患者の数	10415	人
	C:救急用自動車によって搬入された患者の数	1281	人
	D:初診の患者の数	14918	人

（注）　1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3　A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
高村　博之	金沢医科大学病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
木下　実	木下法律事務所		法律に関する識見を有する者	無	1
三善　郁代	富山県立大学看護学部		医療を受ける者	無	2

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法 富山大学ホームページへの掲載	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

1　承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先　進　医　療　の　種　類	取扱患者数（人）
細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断（PCR法）	0
先進医療の種類の合計数	1
取扱い患者数の合計（人）	0

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
ハイパードライヒト乾燥羊膜を用いた外科的再建術	0
Ｓ－1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法	6
術前のゲムシタビン静脈内投与及びナブ―パクリタキセル静脈内投与の併用療法	0
先進医療の種類の合計数	3
取扱い患者数の合計（人）	6

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	経気管支的クライオ生検	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 気管支鏡を用い、経気管支的にクライオプローブによって病変組織を凍結することによって挫滅の少ない大きな検体を採取することが可能である。			
医療技術名	経気管支的超音波画像下リンパ節生検	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 縦隔リンパ節病変は悪性腫瘍転移や悪性リンパ腫などがあり組織診断が重要となる。超音波気管支内視鏡を用いて比較的低侵襲に縦隔リンパ節生検を行うことが可能である。			
医療技術名	心臓MRI	取扱患者数	41人
当該医療技術の概要 シネMRIは現在最も正確な心機能と局所壁運動の診断法であり、遅延造影MRIは現在最も正確な心筋梗塞の画像診断法である。空間分解能が高いため右室梗塞や心内膜化梗塞も明瞭に診断できる。（冠動脈病変の非侵襲的診断法に関するガイドラインJCS2009）			
医療技術名	冠動脈CT撮影	取扱患者数	414人
当該医療技術の概要 冠動脈の状態を調べるために、造影剤を急速静注したのち、心電図と同期して心臓全体の撮影を行う。専用の3Dワークステーションを用いて、冠動脈の解析を行える。心臓カテーテル検査より安全、簡便に検査可能である。			
医療技術名	経皮的心房中隔欠損閉鎖術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 心房中隔欠損症に対してカテーテルにより閉塞栓を用いて閉鎖術を行っている。			
医療技術名	植込み型補助人工心臓治療	取扱患者数	01人
当該医療技術の概要 薬物療法不応性の重症心不全患者に対し植込み型補助人工心臓を装着し、心不全治療をおこなっている。			
医療技術名	心房(室)細動のカテーテル・アブレーション	取扱患者数	194人
当該医療技術の概要 抗不整脈薬が無効な心房細動の根治術として高周波エネルギーを用いたアブレーションを行っている。			
医療技術名	慢性血栓塞栓性肺高血圧に対するカテーテル治療	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 慢性血栓塞栓性肺高血圧は、薬物治療に抵抗性であり、閉塞した肺動脈をバルーンで拡張することにより肺高血圧の軽減を図る。			
医療技術名	経カテーテル大動脈弁留置術	取扱患者数	74人
当該医療技術の概要 手術に耐えられない、あるいは手術リスクが非常に高い患者さんに対して、カテーテルを用いた体への負担が小さい治療であるTAVI（バルーンカテーテルに人工弁を乗せて大動脈弁まで運び、バルーンを拡張して留置する手術）を行っている。			
医療技術名	補助循環用ポンプカテーテル(Impella)による重症心不全管理	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 心原性ショック患者に対する経皮的補助循環装置である。			
医療技術名	経皮的僧帽弁接合不全修復システム	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 外科的治療が困難な重度の僧帽弁閉鎖不全症の患者に対して行う、経カテーテルに僧帽弁接合不全を修復する治療			
医療技術名	多血小板血漿を用いた難治性皮膚潰瘍治療	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 通常の治療で十分な効果が得られない難治性皮膚潰瘍に対して、患者から採取した多血小板血漿を創部に投与し潰瘍の上皮化を促進を図る			
医療技術名	難治性足底疣贅に対するスキャナ搭載炭酸ガスレーザー治療	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 足底疣贅は液体窒素などの一般的な疣贅治療に抵抗性を示し、難治性であることが多い。当科ではスキャナ搭載型CO2レーザーを用いて真皮深層レベルまでの過不足ない照射を行うことで、高い治癒率を得ている。			

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	乳児血管腫に対する集学的治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 発症部位やサイズより通常の治療が困難な乳児血管腫に対して、プロプラにロール内服とレーザー照射を組み合わせて血管腫の治療を行う。			
医療技術名	脳動脈瘤に対するステント併用コイル塞栓術	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 脳動脈瘤に対するコイル塞栓術は一般に広く行われているが、頚部の広い動脈瘤の場合は治療が困難である。そのような場合にはステントを併用してコイル塞栓術を実施する必要があるが、治療技術には数多くの工夫や経験が必要である。北陸で最多。			
医療技術名	内視鏡を用いた経蝶形骨洞下垂体手術	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 手術顕微鏡を用いた経蝶形骨洞下垂体手術は以前から広く実施されているが、高精細の神経内視鏡を用いた経蝶形骨洞下垂体は、特殊なトレーニングを要するが、従来では完全に治療できなかった下垂体腫瘍も治療することが可能である。県内では最多。			
医療技術名	脳動脈瘤頚部クリッピング術	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要 脳動脈瘤の根治術として古くから実施されている治療であるが、安全性を担保した上での治療を目指す場合、その技術的難易度は依然として高く、システマティックなトレーニングと多数の臨床経験を要する。県内では最多の手術件数を誇っている。			
医療技術名	もやもや病に対する複合バイパス術	取扱患者数	22人
当該医療技術の概要 もやもや病に対するバイパス手術は、対象となる動脈径が0.3～1.0mmと極細径で高度のトレーニング、手術技術を要する。中部地域では当院が最多の手術件数を誇っている。			
医療技術名	脳動脈瘤に対するフロー・ダイバーターを用いた治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 治療困難な内頚動脈瘤に対するフロー・ダイバーターを用いた血管内治療は、きわめて高度の技術を必要とし、学会からその実施を認可されている施設は北陸では当院が唯一である。			
医療技術名	小児脳・脊髄奇形に対する根治術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 小児の脳および脊髄の解剖、機能、病態を深く理解するとともに多数の治療経験が必要である。当院には2名の小児神経外科学会認定医が在籍しており、北陸では唯一の施設である。			
医療技術名	悪性リンパ腫に対する大量メソトレキセート化学療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 本疾患に対する大量メソトレキセート化学療法は副作用も多く、周到な準備と管理が必要である。血液内科、放射線科との緊密な連携も必要である。県内では最多の治療実績を有している。			
医療技術名	がんゲノム医療(遺伝子パネル検査の実施)	取扱患者数	136人
当該医療技術の概要 本検査は治療法が見つからないがん患者検体よりがん特有の遺伝子変異を同定し、薬剤を検討するものである。院内エキスパートパネルでは多数の専門家が集まり、高度な議論の上、治療薬の推奨を行っている。			
医療技術名	変形を伴う股関節疾患におけるナビゲージョン手術	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 臼蓋形成不全などの変性の強い股関節疾患に対しナビゲーション手術を行うことにより安全かつ正確に手術を行うことができる。			
医療技術名	変形を伴う脊椎疾患におけるナビゲージョン手術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 側彎などの変性の強い脊椎変形疾患に対しナビゲーション手術を行うことにより安全かつ正確に手術を行うことができる。			
医療技術名	膝疾患におけるロボット手術	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 変形性膝関節症に対しロボットを用いた手術を行うことにより安全かつ正確に手術を行うことができる。			

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	脊椎疾患における3Dモデルと鋳型デバイスを用いた手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 脊椎疾患に対し3Dモデルと鋳型デバイスを用いることにより安全かつ正確に手術を行うことができる。			
医療技術名	四肢悪性腫瘍に対する3Dモデルとオリジナルデバイスを用いた再建手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 四肢悪性腫瘍疾患に対し3Dモデルとオリジナルデバイスを用いることにより、再建を容易なものとし安全かつ正確に手術を行うことができる。			
医療技術名	上肢疾患におけるwide awake surgery	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 局所麻酔剤を用いwide awake surgeryを行うことにより、機能再建を安全かつ正確に手術を行うことができる。			
医療技術名	脊椎ロボットを用いたナビゲーション手術	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 脊椎ロボットを用い胸腰椎の椎弓根スクリューを正確に挿入することができる。			
医療技術名	子宮内感染症起炎菌の迅速検査法と適切な抗菌薬治療の実施	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 切迫早産、早産例の羊水中の病原微生物を、当院で開発した偽陽性のない迅速高感度PCR法にて検出し、適切な抗菌薬治療を行っている。本迅速検査法を用いて切迫早産治療に役立てているのは、当院のみである。また、原因究明にも役立っている。			
医療技術名	培養脂肪幹細胞付加脂肪注入による乳がん術後の乳房再建	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 乳がん患者の脂肪20gから抽出した脂肪幹細胞を培養により大量に増やし凍結保存する。次に患者の腹部、大腿部から吸引した脂肪を遠心して精製した後に、解凍した培養脂肪幹細胞を付加し、脂肪注入の生着率を高め、低侵襲な乳房再建を行う。			
医療技術名	ルテチウムオキソドトレオチド（Lu-177）注射液を用いる核医学治療	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 ルテチウムオキソドトレオチド（177Lu）注射液を用いたソマトスタチン受容体陽性の神経内分泌腫瘍に対するペプチド受容体放射性核種療法である。			
医療技術名	塩化ラジウム（Ra-223）注射液を用いる内用療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 放射性塩化ラジウム注射液を用いた骨転移を有する去勢抵抗性前立腺癌患者に対して行う RI 内用療法である。			
医療技術名	婦人科腫瘍に対する組織内照射併用腔内照射	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 腔内照射と組織内照射のそれぞれの利点と欠点を補い合う発想で、通常の腔内照射に組織内照射針を組み合わせた照射方法である。			
医療技術名	内耳造影MRI検査	取扱患者数	39人
当該医療技術の概要 メニエール病は内リンパ水腫が原因とされているが、生体における画像検査はこれまで存在しなかった。高解像度のMRIを用い、新たに開発された特殊な造影法で内リンパ水腫の画像診断が可能になった。			
医療技術名	3Dプリンティング技術を活用したオーダーメイド再建プレートによる下顎骨再	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 レーザーを用いた3Dプリンティング技術により、CTから得た患者の下顎骨情報に合わせてフルカスタムメイドで製造する顎骨再建プレート。手術時のプレートの屈曲成形と患部への適合調整が不要で外傷や腫瘍切除による下顎骨欠損を再建可能となる。			

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	経皮的リンパ節造影	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 蛋白漏出性胃腸炎ではリンパ節からのリンパ液の腸管への漏出が問題となる。腸管リンパ節に対して経皮的リンパ節造影を行い、診断と治療を行っている。			
医療技術名	経皮的心房中隔欠損閉鎖術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 心房中隔欠損症に対してカテーテルにより閉塞栓を用いて閉鎖術を行っている。			
医療技術名	心臓CT撮影	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 先天性心疾患の状態を調べるために、造影剤を急速静注したのち、心電図と同期して心臓全体の撮影を行う。専用の3Dワークステーションを用いて、疾患の解析を行える。心臓カテーテル検査より安全、簡便に検査可能である。			

（注）1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

（注）2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること（当該医療が先進医療の場合についても記入すること）。

その他の高度医療の種類の合計数	39
取扱い患者数の合計（人）	1546人

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	4	56	ベーチェット病	37
2	筋萎縮性側索硬化症	24	57	特発性拡張型心筋症	56
3	脊髄性筋萎縮症	4	58	肥大型心筋症	14
4	原発性側索硬化症	5	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	10	60	再生不良性貧血	8
6	パーキンソン病	173	61	自己免疫性溶血性貧血	3
7	大脳皮質基底核変性症	6	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	22
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	2	65	原発性免疫不全症候群	6
11	重症筋無力症	55	66	IgA 腎症	24
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	27
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	98	68	黄色靭帯骨化症	14
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎 ／多巣性運動ニューロパチー	41	69	後縦靭帯骨化症	59
15	封入体筋炎	4	70	広範脊柱管狭窄症	2
16	クロウ・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	19
17	多系統萎縮症	14	72	下垂体性ADH分泌異常症	5
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	33	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	9
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	2
21	ミトコンドリア病	10	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	113	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	14
23	プリオン病	2	78	下垂体前葉機能低下症	47
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症（ホモ接合体）	2
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	2	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	1
28	全身性アミロイドーシス	27	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	43
30	遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎	27
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	17
32	自己貪食空胞性ミオパチー	1	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	22
34	神経線維腫症	10	89	リンパ脈管筋腫症	7
35	天疱瘡	8	90	網膜色素変性症	56
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬（汎発型）	2	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	31
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	2

（様式第2）　　高度の医療の提供の実績

4　指定難病についての診療

40	高安動脈炎	19	95	自己免疫性肝炎	6
41	巨細胞性動脈炎	2	96	クローン病	134
42	結節性多発動脈炎	4	97	潰瘍性大腸炎	118
43	顕微鏡的多発血管炎	18	98	好酸球性消化管疾患	14
44	多発血管炎性肉芽腫症	10	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	17	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	12	101	腸管神経節細胞僅少症	0
47	バージャー病	4	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	176	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	77	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	38	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	25	107	全身型若年性特発性関節炎	4
53	シェーグレン症候群	42	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	7	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	3	110	ブラウ症候群	1
	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）	7
113	筋ジストロフィー	13	163	特発性後天性全身性無汗症	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜症	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	0
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	5
122	脳表ヘモジデリン沈着症	2	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	2	177	有馬症候群	0
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型（二相性）急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR－X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	1	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	1
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	2
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	8	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	2	210	単心室症	3
	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロール アシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1	262	原発性高カイロミクロン血症	2
215	ファロー四徴症	2	263	脳腱黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	2	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	3
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	8	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・ アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	23	270	慢性再発性多発性骨髄炎	5

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	271	強直性脊椎炎	17
224	紫斑病性腎炎	4	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎（ハンナ型）	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	4	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	1	276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性）	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	1	278	巨大リンパ管奇形（頚部顔面病変）	0
231	α1－アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形（頚部口腔咽頭びまん性病変）	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形（頚部顔面又は四肢病変）	1
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病 （副腎白質ジストロフィーを除く。）	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイアモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	2
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症 （自己免疫性後天性凝固第Ｘ因子欠乏症）	1
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	4
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病 （全結腸型又は小腸型）	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膵炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	5
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	1
257	肝型糖原病	1	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース－１－リン酸 ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	37
	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素（SR）欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール （GPI）欠損症	0

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4　指定難病についての診療

309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β―ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L－アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群（爪膝蓋骨症候群）／LMX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症（遺伝性血栓性素因によるものに限る。）	1
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	1
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	1
			332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
			333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
			334	脳クレアチン欠乏症候群	0
			335	ネフロン癆	0
			336	家族性低βリポタンパク血症1（ホモ接合体）	0
			337	ホモシスチン尿症	0
			338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0

（注）「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	126
合計患者数（人）	2153

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（基本診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料 一般病棟 7対1入院基本料 （入院栄養管理体制加算）	・ハイリスク妊娠管理加算
・特定機能病院入院基本料 精神病棟 13対1入院基本料	・ハイリスク分娩管理加算
・救急医療管理加算	・呼吸ケアチーム加算
・超急性期脳卒中加算	・後発医薬品使用体制加算 1
・診療録管理体制加算 1	・病棟薬剤業務実施加算1
・医師事務作業補助体制加算1 20対1	・病棟薬剤業務実施加算2
・急性期看護補助体制加算（25対1，5割以上）	・データ提出加算 2
（夜間100対1急性期看護補助体制加算）	・入退院支援加算1，3 （地域連携診療計画加算）
（夜間看護体制加算）	・入退院支援加算1，3 （入院時支援加算）
（看護補助体制充実加算）	・認知症ケア加算2
・看護職員夜間12対1配置加算1	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・看護補助加算 2 （看護補助体制充実加算）	・精神疾患診療体制加算
・療養環境加算	・精神科急性期医師配置加算2 イ精神病棟入院基本料等の場合
・重症者等療養環境特別加算	・地域医療体制確保加算
・無菌治療室管理加算 1	・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)
・無菌治療室管理加算 2	・放射線治療病室管理加算（密封小線源による場合）
・緩和ケア診療加算	・特定集中治療室管理料 4
・精神病棟入院時医学管理加算	・ハイケアユニット入院医療管理料 1
・精神科身体合併症管理加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・精神科リエゾンチーム加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・栄養サポートチーム加算	・小児入院医療管理料 2 注2加算 （無菌治療管理加算1） （無菌治療管理加算2）
・医療安全対策加算 1	
・感染対策向上加算 1（指導強化加算）	・看護職員処遇改善評価料62
・患者サポート体制充実加算	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・重症患者初期支援充実加算	・歯科外来診療環境体制加算2
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・ウイルス疾患指導料の注2	・肝炎インターフェロン治療計画料
・外来栄養食事指導料の注3	・ハイリスク妊産婦連携指導料1
・心臓ペースメーカー指導管理料（遠隔モニタリング加算）	・ハイリスク妊産婦連携指導料2
・糖尿病合併症管理料	・薬剤管理指導料
・がん性疼痛緩和指導管理料	・医療機器安全管理料 1（生命維持装置使用）
・がん患者指導管理料 イ	・医療機器安全管理料 2（放射線治療計画策定）
・がん患者指導管理料 ロ	・在宅植込型補助人工心臓（非拍動流型）指導管理料
・がん患者指導管理料 ハ	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・がん患者指導管理料 ニ	・持続血糖測定器加算（及び皮下連続式グルコース測定）（間歇注入シリ　ンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）
・外来緩和ケア管理料	・持続血糖測定器加算（及び皮下連続式グルコース測定）（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）
・移植後患者指導管理料（臓器移植後）	・遺伝学的検査
・移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）	・染色体検査の注2　流産検体を用いた絨毛染色体検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・BRCA1/2遺伝子検査(腫瘍細胞を検体とするもの)
・婦人科特定疾患治療管理料	・BRCA1/2遺伝子検査(血液を検体とするもの)
・腎代替療法指導管理料	・がんゲノムプロファイリング検査
・一般不妊治療管理料	・角膜ジストロフィー遺伝子検査
・下肢創傷処置管理料	・先天性代謝異常症検査
・二次性骨折予防継続管理料1	・抗アデノ随伴ウイルス9型（AAV9）抗体
・二次性骨折予防継続管理料3	・抗HLA抗体（スクリーニング検査）及び抗HLA抗体（抗体特異性同定検査）
・院内トリアージ実施料	・HPV核酸検出
・夜間休日救急搬送医学管理料（救急搬送看護体制加算2）	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
・外来放射線照射診療料	・検体検査管理加算（Ⅳ）
・外来腫瘍化学療法診療料1	・国際標準検査管理加算
・連携充実加算	・遺伝カウンセリング加算
・ニコチン依存症管理料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・療養・就労両立支援指導料（相談支援加算）	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・ハイリスク妊産婦共同管理料（Ⅰ）	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・がん治療連携計画策定料	・胎児心エコー法

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・ヘッドアップティルト試験	・がん患者リハビリテーション料
・長期継続頭蓋内脳波検査	・リンパ浮腫複合的治療料
・脳磁図（その他のもの）	・認知療法・認知行動療法　1
・脳波検査判断料1	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）
・神経学的検査	・医療保護入院等診療料
・補聴器適合検査	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1
・全視野精密網膜電図	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1
・ロービジョン検査判断料	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1
・小児食物アレルギー負荷検査	・静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）
・内服・点滴誘発試験	・多血小板血漿処置
・経気管支凍結生検法	・硬膜外自家血注入
・画像診断管理加算 2	・人工腎臓
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・導入期加算3及び腎代替療法実績加算
・CT撮影及びMRI撮影	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・冠動脈CT撮影加算	・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
・心臓MRI撮影加算	・センチネルリンパ節加算
・乳房MRI撮影加算	・組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る）
・小児鎮静下MRI撮影加算	・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術、骨悪性腫瘍手術の注に規定する処理骨再建加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・骨移植術（軟骨移植術を含む）（自家培養軟骨移植術に限る）
・外来化学療法加算 1	・後縦靱帯骨化症手術（前方進入によるもの）
・無菌製剤処理料	・椎間板内酵素注入療法
・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）初期加算	・腫瘍脊椎骨全摘出術
・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）初期加算	・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）初期加算	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）初期加算	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・癒着性脊髄くも膜炎手術（脊髄くも膜剥離操作を行うもの）	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・角結膜悪性腫瘍切除術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・角膜移植術（内皮移植加算）	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（気管支形成を伴う肺切除）
・羊膜移植術	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの）	・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・緑内障手術（緑内障手術（流出路再建術（眼内法）及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）	・経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
・緑内障手術（濾過胞再建術（needle法））	・胸腔鏡下弁形成術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いるもの）	・胸腔鏡下弁置換術
・網膜再建術	・経カテーテル弁置換術（経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術）
・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	・経皮的僧帽弁クリップ術
・人工中耳植込術	・不整脈手術（左心耳閉鎖術（胸腔鏡下によるもの）
・植込型骨導補聴器（直接振動型）植込術	・不整脈手術（左心耳閉鎖術（経カテーテル的手術によるもの））
・人工内耳植込術	・経皮的中隔心筋焼灼術
・植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅴ型（拡大副鼻腔手術）	・ペースメーカー移植術（リードレスペースメーカー）
・経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術（頭蓋底郭清、再建を伴うもの）	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術（心筋電極の場合）
・内喉頭筋内注入術（ボツリヌス毒素によるもの）	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合）
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術（心筋リードを用いるもの）
・ 内視鏡下バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）	・植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経静脈電極抜去術
・内視鏡下副甲状腺（上皮小体）腺腫過形成手術	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（心筋電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（心筋電極の場合）
・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
・乳腺悪性腫瘍手術　乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）	・経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）（小児を対象とする場合）
・乳腺悪性腫瘍手術　乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの）	・経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）	・経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）（小児を対象とする場合）
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・補助人工心臓
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・植込型補助人工心臓（非拍動流型）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）及び腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下噴門側胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下噴門側胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・腹腔鏡下胃全摘術（単純全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）及び腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	・腹腔鏡下仙骨膣固定術
・腹腔鏡下胃縮小術（スリーブ状切除によるもの）	・腹腔鏡下仙骨膣固定術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの）	・体外式模型人工肺管理料
・胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うもの	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
・腹腔鏡下肝切除術 腹腔鏡下肝切除術（亜区域切除、1区域切除（外側区域切除を除く）、2区域切除及び3区域切除以上のもの）	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
・生体部分肝移植術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・医科点数表第2章第10部手術の通則16に掲げる手術
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。）
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出手術）
・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(十二指腸切除の場合)	・輸血管理料 Ⅰ
・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・輸血適正使用加算
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・内視鏡的小腸ポリープ切除術	・自己生体組織接着剤作成術
・腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・自己クリオプレシピテート作製術（用手法）
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの） ・腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・腹腔鏡下腎盂形成手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・麻酔管理料（Ⅰ）
・同種死体腎移植術	・麻酔管理料（Ⅱ）
・生体腎移植術	・放射線治療専任加算
・膀胱頸部形成術（膀胱頸部吊上術以外） ・埋没陰茎手術 ・陰嚢水腫手術（鼠径部切開によるもの）	・外来放射線治療加算
・膀胱水圧拡張術	・高エネルギー放射線治療
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・1回線量増加加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・強度変調放射線治療（IMRT）
・人工尿道括約筋植込・置換術	・画像誘導放射線治療加算（IGRT）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・体外照射呼吸性移動対策加算	
・定位放射線治療	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・
・保険医療機関間の連携による病理診断	・
・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	・
・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診	・
・病理診断管理加算2	・
・悪性腫瘍病理組織標本加算	・
・歯科治療時医療管理料	・
・医療機器安全管理料（歯科）	・
・有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査	・
・有床義歯咀嚼機能検査2のロ及び咬合圧検査	・
・精密触覚機能検査	・
・歯科口腔リハビリテーション料 2	・
・歯周組織再生誘導手術	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・歯根端切除手術の注3	・
・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	・
・口腔病理診断管理加算 2	・
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・染色体検査 注2 流産検体を用いた絨毛染色体検査	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1か月に1回程度開催	
剖検の状況	剖検症例数(例)	41例
	剖検率(%)	15.50%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
組織骨格を利用した再生臓器におけるハイブリッド型血管ニッチの確立と移植研究	土谷 智史	附属病院	5,059,851	補 委	日本学術振興会
霊長類の脳進化を担う本能的認知機構(膝状体外視覚系)の神経生理学的特性解明	西条 寿夫	医学部	5,460,000	補 委	日本学術振興会
マルチモーダル確率モデルによる若年精神疾患患者の転帰予測法の開発	鈴木 道雄	医学部	3,250,000	補 委	日本学術振興会
M2マクロファージ制御による骨格筋損傷からの回復を促進する治療法の開発	戸辺 一之	医学部	2,600,000	補 委	日本学術振興会
c-fos/AP-1阻害薬の疼痛制御機構とsc-RNAseq解析での椎間板再生	関 庄二	附属病院	4,030,000	補 委	日本学術振興会
血小板由来増殖因子による脳の老化制御機構の解明	笹原 正清	医学部	5,460,000	補 委	日本学術振興会
採血後4hでの起炎菌迅速同定・定量検査法を用い「菌数」をバイオマーカーとする研究	仁井見 英樹	医学部	4,160,000	補 委	日本学術振興会
新型ウイルス感染症を標的とした新たな免疫治療法確立のための基盤研究	村口 篤	医学部	5,460,000	補 委	日本学術振興会
骨髄間質細胞由来細胞外小胞を用いた脳梗塞の包括的再生治療研究	黒田 敏	医学部	5,460,000	補 委	日本学術振興会
オートファジー機能低下による妊娠高血圧症候群～治療開発およびその起源の追究～	中島 彰俊	医学部	6,500,000	補 委	日本学術振興会
発達期のNAD代謝は老年期の運動能力を運命づけるのか？	中川 崇	医学部	6,630,000	補 委	日本学術振興会
心臓の働きの不思議:心臓を見て聞いて感じてみよう!	廣野 恵一	附属病院	450,000	補 委	日本学術振興会
多面的な生物学的指標を用いた精神病性障害の予後予測の試み	高橋 努	医学部	650,000	補 委	日本学術振興会
microRNAを標的とした膵神経内分泌腫瘍の新規治療法の開発	平林 健一	医学部	1,040,000	補 委	日本学術振興会
環境エンリッチメントは麻酔の質を向上させるか一扁桃体／海馬における脳科学的研究一	廣田 弘毅	医学部	910,000	補 委	日本学術振興会
地域在住高齢者の足趾運動の効果と転倒との関連ロコモティブシンドロームを改善する	金森 昌彦	医学部	650,000	補 委	日本学術振興会
化学療法誘発性末梢神経障害におけるグリア細胞を介した病態を解明し治療へと展開する	川上 正晃	附属病院	780,000	補 委	日本学術振興会
霊長類の海馬による3次元環境内での居場所情報符号化様式の解明	田村 了以	医学部	1,430,000	補 委	日本学術振興会
Tm mapping法による肝硬変腹水中の細菌の同定・定量と自然免疫応答の解析	田尻 和人	医学部	1,430,000	補 委	日本学術振興会
共生細菌の糖利用競争力を利用した耐性菌制御法の構築	森永 芳智	医学部	1,300,000	補 委	日本学術振興会
食成分による腸内細菌叢を介した糖代謝制御 ～ノトバイオートマウスを用いた研究～	藤坂 志帆	附属病院	910,000	補 委	日本学術振興会
慢性痛下の睡眠障害に特異的な痛み関連シグナルとしてのmicroRNAの探索	竹村 佳記	附属病院	2,470,000	補 委	日本学術振興会
てんかん患者における全身麻酔不安定化メカニズムの解明と安全な麻酔法の確立	佐々木 利佳	医学部	650,000	補 委	日本学術振興会
好中球細胞外トラップを標的とした内頚動脈狭窄症不安定プラークに対する創薬	柏崎 大奈	附属病院	1,560,000	補 委	日本学術振興会
リキッドバイオプシーを用いた軟部肉腫の早期転移診断・治療法の確立	鈴木 賀代	附属病院	910,000	補 委	日本学術振興会
制御性T細胞、樹状細胞、NK細胞による母児免疫寛容誘導メカニズムの解明	島 友子	医学部	910,000	補 委	日本学術振興会
「羊水中菌数」を新たなバイオマーカーとして早産児の後遺症なき生存を目指す治療戦略	米田 徳子	医学部	910,000	補 委	日本学術振興会
ニューロフィードバック技術を応用した前庭リハビリテーション法の創成	高倉 大匡	附属病院	780,000	補 委	日本学術振興会
口腔癌の免疫逃避機構の解除による新たな治療戦略に関する研究	今上 修一	附属病院	1,430,000	補 委	日本学術振興会
パーソナルヘルスコード導入によるメタボリック症候群の予防と進行抑制法の開発	朴木 久恵	附属病院	910,000	補 委	日本学術振興会
細胞骨格を介した細胞運動極性の制御による骨軟部肉腫の転移抑制	渡邉 健太	附属病院	1,820,000	補 委	日本学術振興会

最適な患者選択と圧設定を行った非侵襲性用圧呼吸治療が心不全患者の予後に与える影響	今村　輝彦	附属病院	780,000	補委	日本学術振興会
癌幹細胞マーカーを用いた消化器癌末梢血循環癌幹細胞の同定と臨床的有用性の検討	渡辺　徹	附属病院	1,040,000	補委	日本学術振興会
慢性痛に対するレスベラトロールの治療・予防効果に関する研究	武部　真理子	附属病院	780,000	補委	日本学術振興会
新規NAD代謝経路の発見。老化制御と治療への展開	中川　崇	医学部	1,950,000	補委	日本学術振興会
動機づけ理論の精緻化を目指した英語教育・学習の動機づけ国際比較実証研究	木村　裕三	医学部	1,170,000	補委	日本学術振興会
幼少期のストレス経験が成体の行動を変容させる：外側手綱核と不安・うつ	一條　裕之	医学部	910,000	補委	日本学術振興会
新規DPP8阻害剤による血液悪性腫瘍の治療開発とバイオマーカーの同定	佐藤　勉	附属病院	1,690,000	補委	日本学術振興会
急性期脳梗塞治療のためのDual-energy CT画像診断プロトコールの開発	野口　京	医学部	520,000	補委	日本学術振興会
アクティブターゲッティングを利用した金ナノ粒子による放射線癌細胞死の増強	近藤　隆	医学部	1,300,000	補委	日本学術振興会
重症心不全患者における消化管出血発症のメカニズムとアンジオポエチン2の関連	中村　牧子	附属病院	390,000	補委	日本学術振興会
孤立性右室低形成の全国実態調査と遺伝学的病態解明	小澤　綾佳	附属病院	1,560,000	補委	日本学術振興会
角化におけるDNA分解機序の解明と創薬への展開	牧野　輝彦	医学部	1,430,000	補委	日本学術振興会
皮膚疾患の病態におけるD-DTの機能解析と新規治療法開発への展開	清水　忠道	医学部	1,560,000	補委	日本学術振興会
1型糖尿病に対する膵島特異的自家樹状細胞ワクチン開発のための基盤研究	中條　大輔	附属病院	1,560,000	補委	日本学術振興会
血管リモデリングが誘導する脂肪幹細胞制御因子の同定による新規肥満病態改善法の創出	和田　努	薬学部	1,300,000	補委	日本学術振興会
AIを用いた血中癌細胞識別による食道癌化学療法効果予測アルゴリズムの確立	奥村　知之	附属病院	1,300,000	補委	日本学術振興会
がん転移におよぼす麻酔薬の相違：腫瘍免疫に注目したin vivo転移モデルの解析	松尾　光浩	医学部	1,170,000	補委	日本学術振興会
妊娠中期の頸管長短縮メカニズムの解明と超早産児低減への臨床応用	米田　哲	医学部	1,560,000	補委	日本学術振興会
水素ガス吸入による網膜動脈閉塞症治療への展開	林　篤志	医学部	1,300,000	補委	日本学術振興会
脂肪組織由来幹細胞を用いたサルコペニアの予防と治療に関する基礎研究	佐武　利彦	附属病院	650,000	補委	日本学術振興会
口腔扁平上皮癌頸部リンパ節転移被膜外浸潤メカニズムの分子生物学的検討	山田　慎一	医学部	1,040,000	補委	日本学術振興会
免疫学的アプローチによるびまん性浸潤口腔扁平上皮癌の制御に関する基礎的研究	野口　誠	医学部	1,430,000	補委	日本学術振興会
地域に特化した医療人材育成カリキュラム開発：地域医療者教育に必要な社会学の視点	高村　昭輝	医学部	1,300,000	補委	日本学術振興会
多発性硬化症の認知症・疲労・うつに対する経頭蓋直流電気刺激療法(tDCS)の開発	中辻　裕司	附属病院	910,000	補委	日本学術振興会
脳波・MRIによる脳内ネットワークのダイナミズムの評価と脳血管障害への臨床応用	服部　憲明	附属病院	1,040,000	補委	日本学術振興会
血小板由来増殖因子による脳および髄膜のリモデリング	濱島　丈	医学部	1,170,000	補委	日本学術振興会
Tmマッピング法による新生児敗血症の迅速診断と最適治療への展開	田村　賢太郎	附属病院	1,170,000	補委	日本学術振興会
microRNAに着目した川崎病冠動脈瘤での血管微小粒子役割解明と創薬標的検索	仲岡　英幸	附属病院	1,040,000	補委	日本学術振興会
M2マクロファージの除去によるインスリン抵抗性改善薬の開発	五十嵐　喜子	医学部	1,560,000	補委	日本学術振興会
肥満症に対するα-ケトグルタル酸のエピゲノム創薬への応用	岡部　圭介	附属病院	1,170,000	補委	日本学術振興会
睡眠障害が遷延性術後痛に与える影響の神経科学的解析	伊東　久勝	附属病院	1,040,000	補委	日本学術振興会
前頭前野機能と遷延性術後痛発症との関係の解明による新しい予防法の開発	日比　大亮	附属病院	1,430,000	補委	日本学術振興会
椎体終板の多孔化抑制と骨量減少抑制に立脚した疼痛制御、その分子標的治療法の開発	牧野　紘士	附属病院	1,820,000	補委	日本学術振興会
単一T細胞トランスクリプトーム解析による妊娠高血圧腎症治療のバイオマーカー探索	津田　さやか	附属病院	910,000	補委	日本学術振興会
口腔癌に対する癌浸潤ミエロイド系細胞を標的とした免疫学的治療戦略の開発	立浪　秀剛	附属病院	1,560,000	補委	日本学術振興会

ジェノタイプ層別化アプローチによる膵癌化学療法病勢評価の最適化	田中　晴祥	附属病院	1,560,000	補委	日本学術振興会
腸内細菌叢を介した小腸栄養トランスポーターの制御機構	渡邊　善之	附属病院	130,000	補委	日本学術振興会
脂肪組織常在性マクロファージが担う新たな生理機能の探求	西村　歩	附属病院	1,560,000	補委	日本学術振興会
消化器癌における血中循環腫瘍細胞のクラスター化阻害に着目した新規治療開発	三輪　武史	附属病院	1,560,000	補委	日本学術振興会
心房細動における代謝リプログラミング～メタボロミクスによる全容解明の試み～	片岡　直也	医学部	780,000	補委	日本学術振興会
事象関連電位と睡眠脳波を用いた精神病発症リスク状態の診断的および機能的転帰予測	樋口　悠子	附属病院	1,690,000	補委	日本学術振興会
免疫ブースト効果によるがんの放射線治療効果向上の試み	渡部　明彦	附属病院	1,300,000	補委	日本学術振興会
MYH7の多様性に着目した心筋緻密化障害の病態の解明	廣野　恵一	附属病院	2,340,000	補委	日本学術振興会
フォンタン術後のタンパク漏出性胃腸症の早期発見と治療に向けた基盤の構築	伊吹　圭二郎	附属病院	1,950,000	補委	日本学術振興会
唾液中薬物濃度を新たな指標とする非侵襲的抗MRSA薬TDMの創出	山本　善裕	医学部	1,170,000	補委	日本学術振興会
マクロファージによる肥満誘発性発癌機構の解明	角　朝信	附属病院	1,690,000	補委	日本学術振興会
乳癌の個別化医療を目指した次世代AIによるリキッドバイオプシーの高度化	渋谷　和人	医学部	1,690,000	補委	日本学術振興会
ヒアルロン酸の血管内皮グリコカリックスにおける機能の解析	土井　智章	医学部	1,000	補委	日本学術振興会
脳脊髄液循環路（経路と組織構造）の解明とその経路の臨床への応用	赤井　卓也	医学部	1,430,000	補委	日本学術振興会
IL-23/IL-17/ペリオスチン経路を介した後縦靭帯骨化症骨化巣への治療戦略	川口　善治	医学部	1,430,000	補委	日本学術振興会
近赤外線分光法を用いた持続性知覚性姿勢誘発めまいの他覚的評価システム構築	將積　日出夫	医学部	2,470,000	補委	日本学術振興会
眼瞼脂腺癌のpagetoid spread におけるエピジェネティクな病態解明	柚木　達也	医学部	1,690,000	補委	日本学術振興会
難治性創傷患者の治療を目的としたヒト人工羊膜の開発	荒井　健一	医学部	1,170,000	補委	日本学術振興会
機械学習による地域間健康格差のモデル化ー国保特定健診・医療費データによる分析ー	関根　道和	医学部	1,170,000	補委	日本学術振興会
ケトン体システムを用いた新たな生活習慣病予防基盤の確立	稲寺　秀邦	医学部	2,470,000	補委	日本学術振興会
小学生におけるインターネットの病的利用と健康障害：大規模疫学研究	山田　正明	医学部	910,000	補委	日本学術振興会
手浴の自律神経バランス調整効果に対するマッサージの影響	堀　悦郎	医学部	2,990,000	補委	日本学術振興会
分子標的薬アファチニブの薬効予測を実現するシミュレーション解析と数理モデル	菅野　亜紀	附属病院	2,080,000	補委	日本学術振興会
FUT3-null個体特異的糖鎖抗原マーカーの同定と進行膵癌予後予測モデルの開発	田中　晴祥	附属病院	2,340,000	補委	日本学術振興会
早期精神病におけるマルチモダル脳指標は認知機能軌跡を予測するか：アジア多施設研究	笹林　大樹	附属病院	1,300,000	補委	日本学術振興会
脂肪組織常在性マクロファージに着目した糖代謝・脂質代謝恒常性維持機構の解明	西村　歩	附属病院	2,860,000	補委	日本学術振興会
無菌およびノトバイオートマウスを用いた腸内細菌叢による栄養吸収調節機構の解明	渡邊　善之	附属病院	2,210,000	補委	日本学術振興会
初期卵胞発育促進因子を用いた卵巣機能低下症の治療法の開発	伊東　雅美	附属病院	1,950,000	補委	日本学術振興会
父親抗原認識における樹状細胞の役割と妊娠免疫寛容の誘導	安田　一平	附属病院	2,210,000	補委	日本学術振興会
パンデミックにおける適切な学校感染対策のための教育と小児医療の連携モデルの構築	高崎　麻美	医学部	650,000	補委	日本学術振興会
羊膜由来細胞の拒絶回避機構を利用した移植キャリアの開発	吉田　淑子	医学部	4,030,000	補委	日本学術振興会
COVID-19重症化を予防する中和活性レベルの特定とワクチン接種計画への展開	川筋　仁史	医学部	1,430,000	補委	日本学術振興会
外分泌腺における放射線障害の分子病態解明	内田　仁司	医学部	1,430,000	補委	日本学術振興会
HTLV-1の総合的な感染対策に資する研究	齋藤　　滋	産科婦人科学	700,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構

多様な感染症危機に資する動物モデル解析・人材養成基盤の開発	森永　芳智	微生物学	65,000,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
NAD代謝の破綻による老化メカニズムの解明	中川　　崇	分子医科薬理学	13,330,850	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
				補 委	

計　102

（注）

1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申 請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Kikuchi S, Muro M, Kamihara Y,et al.	血液内科	Massive hyperphosphatemia in clinical tumor lysis syndrome during prophylactic rasburicase use: risk factors and treatment options.	Int Cancer Conf J. 2022 Oct 28;12(1):69-74	Original Article
2	Kikuchi S, Wada A, Kamihara Y, et al.	血液内科	Involvement of activation induced cytidine deaminase in malignant B-cells expressing two distinct M-components as an etiology of biclonal gammopathy.	Medicine (Baltimore). 2022 Dec 23;101(51):e32260	Original Article
3	Satake T, Muto M, Okamoto M,et al.	形成再建外科・美容外科	Double-pedicle unaffected split-breast flap for unilateral breast reconstruction.	Microsurgery. 2022 Jul;42(5):441-450.	Original Article
4	Sakai A, Igarashi T, Yoshioka I, et al.	形成再建外科・美容外科	A 47-Year-Old Man with Advanced Distal Pancreatic Carcinoma and an Initial Partial Response to Chemotherapy Requiring Celiac Axis Reconstruction of the Common Hepatic Artery and Left Gastric Artery.	Am J Case Rep. 2022 Sep 10;23:e936840.	Original Article
5	Onoda S, Satake T, Hamada E.et al.	形成再建外科・美容外科	Super-microsurgery technique for lymphaticovenular anastomosis.	J Vasc Surg Venous Lymphat Disord. 2023 Jan;11(1):177-181.	Original Article
6	Kikuchi S, Wada A, Kamihara Y, et al.	検査・輸血細胞治療部	Involvement of activation induced cytidine deaminase in malignant B-cells expressing two distinct M-components as an etiology of biclonal gammopathy.	Medicine (Baltimore). 2022 Dec 23;101(51):e32260.	Original Article
7	Murakami J, Senoo Y, Tanimoto T.et al.	検査・輸血細胞治療部	Rilzabrutinib in Immune Thrombocytopenia.	N Engl J Med. 2022 Jun 30;386(26):2537-2538.	Original Article
8	Takaoka Y, Sugano A, Morinaga Y, et al.	医療情報・経営戦略部	Prediction of infectivity of SARS-CoV2: Mathematical model with analysis of docking simulation for spike proteins and angiotensin-converting enzyme 2.	Microb Risk Anal. 2022 Dec;22:100227.	Original Article
9	Sugano A, Takaoka Y, Kataguchi H, et al.	医療情報・経営戦略部	SARS-CoV-2 Omicron BA.2.75 variant may be much more infective than preexisting variants based on in silico model.	Microorganisms. 2022 Oct 21;10(10):2090.	Original Article
10	Hirono K, Origasa H, Tsuboi K, et al.	周産母子センター	Clinical Status and Outcome of Isolated Right Ventricular Hypoplasia: A Systematic Review and Pooled Analysis of Case Reports.	Front Pediatr. 2022 Apr 21;10:794053.	Original Article
11	Hirono K, Takarada S, Miyao N, et al.	周産母子センター	Thromboembolic events in left ventricular non-compaction: comparison between children and adults - a systematic review and meta-analysis.	Open Heart. 2022 May;9(1):e001908.	Original Article

12	Okabe M, Takarada S, Miyao N, et al.	周産母子センター	G0S2 regulates innate immunity in Kawasaki disease via lncRNA HSD11B1-AS1.	Pediatr Res. 2022 Aug;92(2):378-387.	Original Article
13	Inomata S, Yoshida T, Nagaoka M, et al.	周産母子センター	Effects of long-term antenatal magnesium sulfate administration on the bone mineralization of preterm infants.	J Obstet Gynaecol Res. 2022 Dec;48(12):3119-3127.	Original Article
14	Tamura K, Matsumura K, Tsuchida A, et al.	周産母子センター	Prevalence of infectious diseases in preterm infants: a 2-year follow-up from the Japan Environment and Children's Study.	Sci Rep. 2022 Dec 28;12(1):22488.	Original Article
15	Takahashi N, Ando T, Motoo I, et al.	臨床腫瘍部	Efficacy and Safety of FOLFOX in Advanced Gastric Cancer Initially Presenting With Disseminated IntravascularCoagulation.	In Vivo. 2022 Sep-Oct;36(5):2447-2452.	Original Article
16	Nakano S, Kawamoto Y, Yuki S, et al.	臨床腫瘍部	Study protocol of the HGCSG1803: a phase II multicentre, non-randomised, single-arm, prospective trial of combination chemotherapy with oxaliplatin, irinotecan and S-1 (OX-IRIS) as first-line treatment for metastatic or relapsed pancreatic cancer	BMJ Open. 2022 May 9;12(5):e048833.	Original Article
17	Kato A, Nakagome I, Yoshimura K, et al.	薬剤部	Introduction of C-alkyl branches to L-iminosugars changes their active site binding orientation.	Org Biomol Chem. 2022 Sep 21;20(36):7250-7260.	Original Article
18	Yagi K, Imamura T, Tada H, et al.	臨床研究管理センター	Fragmented QRS on electrocardiography as a predictor for diastolic cardiac dysfunction in type 2 diabetes.	J Diabetes Investig. 2022 Jun;13(6):1052-1061.	Original Article
19	Shikata M, Chujo D, Enkaku A, et al.	臨床研究管理センター	Perioperative C-peptide index is associated with the status of diabetes management after pancreatectomy.	J Diabetes Investig. 2022 Oct;13(10):1685-1694.	Original Article
20	Shikata M*, Chujo D, Enkaku A, et al.	内科学(第一)	Perioperative C-peptide index is associated with the status of diabetes management after pancreatectomy.	J Diabetes Investig. 2022 Oct;13(10):1685-1694.	Original Article
21	Okabe K, Yaku K, Uchida Y, et al.	内科学(第一)	Oral Administration of Nicotinamide Mononucleotide Is Safe and Efficiently Increases Blood Nicotinamide Adenine Dinucleotide Levels in Healthy Subjects.	Front Nutr. 2022 Apr 11;9:868640.	Original Article
22	Shinoda K, Okumura M, Yamaguchi S, et al.	内科学(第一)	A Comparison of Line Blots, Enzyme-linked Immunosorbent, and RNA-immunoprecipitation Assays of Antisynthetase Antibodies in Serum Samples from 44 Patients.	Intern Med. 2022;61(3):313-322.	Original Article
23	Waki D, Tamai H, Yokochi R, et al.	内科学(第一)	Effects of anti-SSA antibodies on the response to methotrexate in rheumatoid arthritis: A retrospective multicenter observational study.	PLoS One. 2022 Jul 22;17(7):e0271921.	Original Article
24	Koshida H, Kataoka N, Imamura T.	内科学(第二)	Therapeutic strategy for those with atrioventricular block and cardiac sarcoidosis. Heart Vessels.	Heart Vessels. 2023 Apr;38(4):614.	Original Article
25	Hemmi H, Kataoka N, Imamura T.	内科学(第二)	Paroxysmal atrial fibrillation as a cause of unexplained syncope.	J Cardiol. 2022 Oct;80(4):373.	Original Article

26	Nakagawa Y, Kataoka N, Imamura T.	内科学(第二)	Clinical Implication of Elevated Circulating Galectin-3 Level on Predicting the Occurrence of Ventricular Arrhythmias.	Intern Med. 2023 Mar 15;62(6):959.	Original Article
27	Kakeshita K, Koike T, Imamura T, et al.	内科学(第二)	Altered arginine vasopressin-cyclic AMP-aquaporin 2 pathway in patients with chronic kidney disease.	Clin Exp Nephrol. 2022 Aug;26(8):788-796.	Original Article
28	Nakagaito M, Imamura T, Joho S,et al.	内科学(第二)	Factors Associated with Recurrent Heart Failure during Incorporating SGLT2 Inhibitors in Patients Hospitalized for Acute Decompensated Heart Failure.	J Clin Med. 2022 Aug 26;11(17):5027.	Original Article
29	Imamura T, Kinugawa K.	内科学(第二)	Implication of sacubitril/valsartan on N-terminal pro B-type natriuretic peptide levels in hypertensive patients.	Ann Palliat Med. 2022 Sep;11(9):2856-2861.	Original Article
30	Imamura T, Narang N, Kinugawa K.et al.	内科学(第二)	Impact of Sodium Zirconium Cyclosilicate Therapy Cessation in Patients with Systolic Heart Failure.	J Clin Med. 2022 Sep 10;11(18):5330.	Original Article
31	Imamura T, Tanaka S, Ueno H, et al.	内科学(第二)	Remote Dielectric Sensing to AssessResidual Pulmonary Congestion Following Percutaneous Mitral Valve Repair.	Medicina (Kaunas). 2022 Sep 16;58(9):1292.	Original Article
32	Nakamura M, Imamura T, Sobajima M, et al.	内科学(第二)	Initial experience of hypoxia-inducible factor prolyl hydroxylase inhibitors in patients with heart failure and renal anemia.	Heart Vessels. 2023 Feb;38(2):284-290.	Original Article
33	Kataoka N, Imamura T.	内科学(第二)	Clinical implication of concomitant surgical atrial fibrillation ablation in patients with reduced ejection fraction.	J Card Surg. 2022 Dec;37(12):5695.	Original Article
34	Imamura T, Izumida T, Narang N,et al.	内科学(第二)	Changes in lung fluid levels with variations in the respiratory cycle.	Heart Vessels. 2023 May;38(5):749-752.	Original Article
35	Izumida T, Imamura T, Kinugawa K.	内科学(第二)	Remote dielectric sensing and lung ultrasound to assess pulmonary congestion.	Heart Vessels. 2023 Apr;38(4):517-522.	Original Article
36	Ueno H, Imamura T, Tanaka S, et al.	内科学(第二)	Left atrial appendage closure for stroke prevention in nonvalvular atrial fibrillation: A current overview.	J Cardiol. 2023 May;81(5):420-428.	Original Article
37	Imamura T, Narang N, Kinugawa K.	内科学(第二)	Risk Factors for Rapid Recurrence of Hyperkalemia following Cessation of Sodium Zirconium Cyclosilicate.	J Clin Med. 2022 Nov 30;11(23):7096.	Original Article
38	Izumida T, Imamura T, Narang N,et al.	内科学(第二)	Patient Selection for Pemafibrate Therapy to Prevent Adverse Cardiovascular Events.	J Clin Med. 2022 Dec 20;12(1):21.	Original Article
39	Imamura T, Fujioka H, Narang N, et al.	内科学(第二)	Impact of Sodium Zirconium Cyclosilicate Therapy on Nutrition Status in Patients with Hyperkalemia.	J Clin Med. 2022 Dec 22;12(1):83.	Original Article
40	Ueno H, Imamura T, Tanaka S, et al.	内科学(第二)	Initial report of percutaneous left atrial appendage closure in hemodialysis patients with atrial fibrillation and high risk of bleeding in Japan.	Cardiovasc Interv Ther. 2023 Jul;38(3):338-347.	Original Article
41	Kakeshita K, Koike T, Imamura T, et al.	内科学(第二)	Prognostic impact of urine cyclic AMP levels in patients with chronic kidney disease.	Clin Exp Nephrol. 2022 Dec;26(12):1194-1199.	Original Article
42	Kinugawa K, Matsukawa M, Nakamura Y,et al.	内科学(第二)	Impact of tolvaptan add-on treatment on patients with heart failure requiring long-term congestion management: A retrospective cohort study using a medical claim database in Japan.	J Cardiol. 2023 Jul;82(1):35-42.	Original Article

43	Kataoka N, Imamura T.	内科学(第二)	Clinical implication of device-based algorithm that optimize atrioventricular delay during cardiac resynchronization therapy.	Heart Vessels. 2023 Jul;38(7):997.	Original Article
44	Nakamura M, Ishiguro A, Dazai M, et al.	内科学(第三)	Feasibility of edoxaban for asymptomatic cancer-associated thrombosis in Japanese patients with gastrointestinal cancer: ExCAVE study.	BMC Cancer. 2022 Dec 16;22(1):1322.	Original Article
45	Hirono K, Takarada S, Miyao N, et al.	小児科	Thromboembolic events in left ventricular non-compaction: comparison between children and adults - a systematic review and meta-analysis.	Open Heart. 2022 May;9(1):e001908.	Original Article
46	Murakami S, Futamura K, Matsumoto K,et al.	小児科	An epidermal keratinocyte homogenate induced type 2 and proinflammatory cytokine expression in cultured dermal cells.	J Dermatol Sci. 2022 May;106(2):93-100.	Original Article
47	Hirono K, Origasa H, Tsuboi K, et al.	小児科	Clinical Status and Outcome of Isolated Right Ventricular Hypoplasia: A Systematic Review and Pooled Analysis of Case Reports.	Front Pediatr. 2022 Apr 21;10:794053.	Original Article
48	Shimizu M, Kato T, Adachi Y, et al.	小児科	Association between Maternal Vitamin D Intake and Infant Allergies: The Japan Environment and Children's Study.	J Nutr Sci Vitaminol (Tokyo). 2022;68(5):375-382.	Original Article
49	Hirono K, Ichida F.	小児科	Left ventricular noncompaction: a disorder with genotypic and phenotypic heterogeneity-a narrative review.	Cardiovasc Diagn Ther. 2022 Aug;12(4):495-515.	Original Article
50	Okabe M, Takarada S, Miyao N,et al.	小児科	G0S2 regulates innate immunity in Kawasaki disease via lncRNA HSD11B1-AS1.	Pediatr Res. 2022 Aug;92(2):378-387.	Original Article
51	Takahashi T, Tsugawa S, Nakajima S, et al.	神経精神	Thalamic and striato-pallidal volumes in schizophrenia patients and individuals at risk for psychosis: a multi-atlas segmentation study.	Pediatr Res. 2022 Aug;92(2):378-387.	Original Article
52	Takahashi T, Wood SJ, Yung AR, et al.	神経精神	Pineal morphology in clinical high-risk state for developing psychosis and different psychotic disorders.	Schizophr Res. 2022 Jun;244:1-7.	Original Article
53	Takahashi T, Sasabayashi D, Yücel M, et al.	神経精神	Different frequency of Heschl's gyrus duplication patterns in neuropsychiatric disorders: an MRI study in bipolar and major depressive disorders.	Front Hum Neurosci. 2022 Jun 13;16:917270.	Original Article
54	Takahashi T, Sasabayashi D, Takayanagi Y,et al.	神経精神	Different Heschl's gyrus duplication patterns in deficit and non-deficit subtypes of schizophrenia.	Front Psychiatry. 2022 Jun 16;13:867461.	Original Article
55	Sasabayashi D, Takayanagi Y, Takahashi T, et al.	神経精神	Increased brain gyrification and subsequent relapse in patients with first-episode schizophrenia.	Front Psychiatry. 2022 Aug 10;13:937605.	Original Article
56	Sasabayashi D,Koike S, Nakajima S, et al.	神経精神	Editorial: Prognostic imaging biomarkers in psychotic disorders.	Front Psychiatry. 2022 Oct 17;13:1053836.	Original Article
57	Takahashi T, Sasabayashi D, Velakoulis D, et al.	神経精神	Heschl's gyrus duplication pattern and clinical characteristics in borderline personality disorder.	Front Psychiatry. 2022 Nov 3;13:1033918.	Original Article
58	Takahashi T, Sasabayashi D, Takayanagi Y, et al.	神経精神	Gross anatomical features of the insular cortex in the schizophrenia spectrum: Potential relationships with vulnerability, illness stages, and clinical subtypes.	Front Psychiatry. 2022 Nov 18;13:1050712.	Original Article

59	Seki S, Iwasaki M, Makino H,et al.	整形外科	Association of ligamentum flavum hypertrophy with adolescent idiopathic scoliosis progression-comparative microarray gene expression analysis.	Int J Mol Sci. 2022 May 1;23(9):5038.	Original Article
60	Seki S, Iwasaki M, Makino H,et al.	整形外科	Direct Reprogramming and induction of human dermal fibroblasts to differentiate into iPS-Derived nucleus pulposus-like cells in 3D culture.	Int J Mol Sci. 2022 Apr 6;23(7):4059.	Original Article
61	Makino H, Seki S, Kamei K,et al.	整形外科	Efficacy of surgeon-directed postoperative local injection with an analgesic mixture in posterior fusion surgery for adolescent idiopathic scoliosis.	BMC Musculoskelet Disord. 2022 Mar 4;23(1):208.	Original Article
62	Zukawa M, Okabe M, Osada R, et al.	整形外科	Effect of hyperdry amniotic membrane in preventing tendon adhesion in a rabbit model.	J Orthop Sci. 2022 May;27(3):707-712.	Original Article
63	Zukawa M, Osada R, Hirokawa T, et al.	整形外科	Usefulness of Wide-Awake Local Anesthesia No Tourniquet Surgery to Decide on Tendon Transfer Versus Grafting in Chronic Flexor Tendon Rupture.	J Hand Surg Glob Online. 2022 May 11;4(6):408-413.	Original Article
64	Hirohiko Tachino, Hiromasa Takakura, Hideo Shojaku,et al.	耳鼻咽喉科	Flap suturing endonasal dacryocystorhinostomy assisted by ultrasonic bone aspirator.	Acta Otolaryngol. 2022 Mar-Apr;142(3-4):316-322.	Original Article
65	Akira Nakazato, Hiromasa Takakura, Tram Anh Do, et al.	耳鼻咽喉科	Efficiency of a novel middle ear pressure device for intractable definite Meniere's disease and delayed endolymphatic hydrops after certification by the public health insurance system in Japan.	Acta Otolaryngol. 2022 May;142(5):388-394.	Original Article
66	Hiromasa Takakura, Hirohiko Tachino, Yutaro Oi, et al.	耳鼻咽喉科	Novel Application of Ultrasonic Bone Aspirator for Endoscopic Modified Medial Maxillectomy.	Front Surg. 2022 Jun 1;9:870380.	Original Article
67	Akira Nakazato, Hiromasa Takakura, Naoko Ueda, et al.	耳鼻咽喉科	12-month effect of middle ear pressure therapy with the EFET01 device for intractable definite Meniere's disease and delayed endolymphatic hydrops after certification by the public health insurance system in Japan.	Acta Otolaryngol. 2022 Jun;142(6):491-498.	Original Article
68	Shinsuke Ito, Hiromasa Takakura, Katsuichi Akaogi, et al.	耳鼻咽喉科	A 14-year nationwide epidemiological analysis of delayed endolymphatic hydrops in Japan.	Acta Otolaryngol. 2022 Jul-Aug;142(7-8):568-574.	Original Article
69	Shinsuke Ito, Hiromasa Takakura, Katsuichi Akaogi, et al.	耳鼻咽喉科	Estimated number and prevalence of patients with delayed endolymphatic hydrops in Japan: a nationwide survey.	Acta Otolaryngol. 2022 Sep-Dec;142(9-12):675-678.	Original Article
70	Ito H, Navratilova E, Vagnerova B, et al.	麻酔科	Chronic pain recruits hypothalamic dynorphin/kappa opioid receptor signalling to promote wakefulness and vigilance.	Brain. 2023 Mar 1;146(3):1186-1199.	Original Article
71	Takemura Y, Sudo Y, Saeki T, Kurata S, et al.	麻酔科	Involvement of spinal G-protein inwardly rectifying potassium (GIRK) channels in the enhanced antinociceptive effects of the activation of both m-opioid and cannabinoid CB1 receptors.	J Pharmacol Sci. 2022 Jul;149(3):85-92.	Original Article

72	Kainuma M, Ouma S, Kawakatsu S,et al.	和漢診療科	An exploratory, open-label, randomized, multicenter trial of hachimijiogan for mild Alzheimer's disease.	Front Pharmacol. 2022 Oct 14;13:991982.	Original Article
73	Kainuma M, Kikukawa M, Egashira N, et al.	和漢診療科	Development of Versatile and Interactive Model Lessons in Kampo Medicine Education.	Tokai J Exp Clin Med. 2022 Dec 20;47(4):154-161.	Original Article
74	Kojima Y, Otsuru M, Hasegawa T,et al.	歯科口腔外科	Risk factors for osteoradionecrosis of the jaw in patients with oral or oropharyngeal cancer: Verification of the effect of tooth extraction before radiotherapy using propensity score matching analysis.	J Dent Sci. 2022 Apr;17(2):1024-1029.	Original Article
75	Naruse T, Yanamoto S, Otsuru M, et al.	歯科口腔外科	Long-term immunosuppressive therapy leads to poor outcomes in patients with oral squamous cell carcinoma.	J Oral Maxillofac Surg Med Pathol. 2022 May , 275-279	Original Article
76	Han Y, Yamada S, Kawamoto M, et al.	歯科口腔外科	Immunohistochemical investigation of biomarkers for predicting adipose tissue invasion in oral squamous cell carcinoma	J Oral Maxillofac Surg Med Pathol.2022 July , 507-513	Original Article
77	Koyama Y, Ohmori N, Momose H, et al.	歯科口腔外科	Detection of swallowing disorders with a multiple-channel surface electromyography sensor sheet.	J Dent Sci. 2022 Jul;17(3):1185-1192.	Original Article
78	Kajihara R, Sakai H, Han Y, et al.	歯科口腔外科	Presence of periodontitis may synergistically contribute to cancer progression via Treg and IL-6	Sci Rep. 2022 Jul 8;12(1):11584.	Original Article
79	Sakamoto Y, Otsuru M, Hasegawa T, et al.	歯科口腔外科	Treatment and Prognosis of Oral Cancer Patients with Confirmed Contralateral Neck Metastasis: A Multicenter Retrospective Analysis.	Int J Environ Res Public Health. 2022 Jul 28;19(15):9229.	Original Article
80	Nobuhara H, Matsugu Y, Soutome S, et al.	歯科口腔外科	Perioperative oral care can prevent surgical site infection after colorectal cancer surgery: A multicenter, retrospective study of 1926 cases analyzed by propensity score matching	Surgery. 2022 Aug;172(2):530-536.	Original Article
81	Yamada S, Hasegawa T, Yoshimura N, et al.	歯科口腔外科	Prevalence of and risk factors for postoperative complications after lower third molar extraction: A multicenter prospective observational study in Japan	Medicine (Baltimore). 2022 Aug 12;101(32):e29989.	Original Article
82	Yanamoto S, Michi Y, Otsuru M, et al.	歯科口腔外科	Protocol for a multicentre, prospective observational study of elective neck dissection for clinically node-negative oral tongue squamous cell carcinoma (END-TC study)	BMJ Open. 2022 Sep 13;12(9):e059615.	Original Article
83	Sakai H, Kondo E, Tanaka H, et al.	歯科口腔外科	COVID-19 transmission in dental practice during the pandemic: A questionnaire-based survey in private dental clinics in Japan	J Dent Sci. 2023 Apr;18(2):497-502.	Original Article
84	Kurioka K, Rin S, Otsuru M, et al.	歯科口腔外科	The Impact of Pretreatment Low Body Mass Index on Cause-Specific Mortality in Patients with Squamous Cell Carcinoma of the Oral Cavity	Nutr Cancer. 2023;75(2):520-531	Original Article
85	Yamada S, Hasegawa T, Yamakawa N, et al.	歯科口腔外科	Oral melanoma: a multicenter study of 69 patients from Japan.	Clin Oral Investig. 2022 Oct;26(10):6187-6193.	Original Article

86	Kajihara R, Yamada S, Hasegawa T, et al.	歯科口腔外科	Perioperative bridging anticoagulation in patients with oral cancer surgery: a multicenter retrospective study	J Oral Maxillofac Surg Med Pathol.2022 Nov, 734-739	Original Article
87	Otsuru M, Hasegawa T, Yamakawa N,et al.	歯科口腔外科	A multicenter study on the distance of closed margin in stage 1-2 squamous cell carcinoma of the tongue	Ann Surg Oncol. 2023 Feb;30(2):1158-1166.	Original Article
88	Kikuchi S, Muro M, Kamihara Y, et al.	血液内科	Massive hyperphosphatemia in clinical tumor lysis syndrome during prophylactic rasburicase use: risk factors and treatment options.	Int Cancer Conf J. 2022 Oct 28;12(1):69-74.	Case Report
89	Wadayama T, Shimizu M, Kimura I, et al.	脳神経内科	Erdheim-Chester Disease Involving the Central Nervous System with Latent Toxoplasmosis.	Intern Med. 2022 Sep 1;61(17):2661-2666.	Case Report
90	Kikuchi S, Muro M, Kamihara Y, et al.	検査・輸血細胞治療部	Massive hyperphosphatemia in clinical tumor lysis syndrome during prophylactic rasburicase use: risk factors and treatment options.	Int Cancer Conf J. 2022 Oct 28;12(1):69-74.	Case Report
91	Hisakatsu Ito, Akiyo Kameyama, Masaaki Kawakami, et al.	集中治療部	Warfarin Reversal With Four-Factor Prothrombin Complex Concentrate for Left Ventricular Assist Device Conversion Surgery Monitored by TEG6s: A Case Report	Cureus. 2022 Aug 7;14(8):e27745.	Case Report
92	Hisakatsu Ito, Akiyo Kameyama, Minako Furuta, et al.	集中治療部	Anesthetic Management Using Remimazolam for Transcatheter Edge-to-Edge Repair of the Mitral Valve in Patients With Reduced Ejection Fraction: A Case Report of Two Cases.	Cureus. 2022 Oct 26;14(10):e30706.	Case Report
93	Tamura K, Awaya T, Wada T, et al.	周産母子センター	Noniron deficiency microcytic anemia, dysmorphic features, and intellectual disability: Diagnostic clues for α-thalassemia/mental retardation associated with chromosome 16 syndrome.	Pediatr Neonatol. 2022 May;63(3):298-300.	Others
94	Minamisaka T, Imura J, Shiraishi K, et al.	病理部	Sebaceous adenoma occurring within an intracranial dermoid cyst.	Neuropathology. 2022 Aug;42(4):289-294.	Case Report
95	Hirabayashi K, Saika T, Nakamura N.	病理部	Background features in the cytology of pancreatic neoplasms.	DEN Open. 2022 Mar 23;2(1):e105.	Review
96	Fujioka H, Imamura T, Koike T,et al.	透析部	Initial Experience to Follow Lung Fluid Levels during Hemodialysis: A Possibility of Remote Dielectric Sensing-Guided Hemodialysis.	J Cardiovasc Dev Dis. 2022 Feb 14;9(2):57.	Case Report
97	Kakeshita K, Imamura T, Onoda H, et al.	透析部	Impact of Goreisan upon aquaporin-2-incorporated aquaresis system in patients with congestive heart failure.	CEN Case Rep. 2023 Feb;12(1):73-77.	Case Report
98	Kakeshita K, Imamura T, Koike T, et al.	透析部	Acute Kidney Injury with Severe Metabolic Alkalosis Caused by Habitual Vomiting in an Alcohol Abuser with Pyloric Stenosis.	Intern Med. 2023 Apr 1;62(7):1031-1035.	Case Report

99	Sakumura M, Ando T, Ueda-Consolvo T, et al.	臨床腫瘍部	Bilateral Serous Retinal Detachment Associated with a Mitogen-activated Protein KinaseKinase Inhibitor in a Patient with BRAF-mutant Colorectal Cancer.	Intern Med. 2022 Jun 1;61(11):1707-1712.	Case Report
100	Minamisaka T, Imura J, Shiraishi K, et al.	病理診断学講座	Sebaceous adenoma occurring within an intracranial dermoid cyst.	Neuropathology. 2022 Aug;42(4):289-294.	Case Report
101	Hirabayashi K, Saika T, Nakamura N.et al.	病理診断学講座	Background features in the cytology of pancreatic neoplasms.	DEN Open. 2022 Mar 23;2(1):e105.	Review
102	Fujisaka S, Watanabe Y, Tobe K.	内科学(第一)講座	The gut microbiome: a core regulator of metabolism.	J Endocrinol. 2023 Jan 19;256(3):e220111.	Review
103	Sakumura M, Ando T, Ueda-Consolvo T,et al.	臨床腫瘍部	Bilateral Serous Retinal Detachment Associated with a Mitogen-activated Protein KinaseKinase Inhibitor in a Patient with BRAF-mutant Colorectal Cancer.	Intern Med. 2022 Jun 1;61(11):1707-1712.	Case Report
104	Imamura T, Izumida T, Nakamura M, et al.	内科学(第二)講座	Therapeutic Strategy for Heart Failure with Reduced Ejection Fraction and Cardiac Amyloidosis.	Int Heart J. 2022;63(2):408-410.	Case Report
105	Imamura T, Kinugawa K. et al.	内科学(第二)講座	Doppler Echocardiography-Guided Heart Rate Modulation Therapy Using Ivabradine in a Patient with Systolic Heart Failure.	Medicina (Kaunas). 2022 Jan 21;58(2):164.	Case Report
106	Nakamura M, Imamura T, Takagi K, et al.	内科学(第二)講座	A Case of T/NK-Cell Post-Transplantation Lymphoproliferative Disease 7 Years after Heart Transplantation.	J Cardiovasc Dev Dis. 2022 Jan 24;9(2):38.	Case Report
107	Fujioka H, Imamura T, Koike T, et al.	内科学(第二)講座	Initial Experience to Follow Lung Fluid Levels during Hemodialysis: A Possibility of Remote Dielectric Sensing-Guided Hemodialysis.	J Cardiovasc Dev Dis. 2022 Feb 14;9(2):57.	Case Report
108	Oshima A*, Imamura T, Onoda H,et al.	内科学(第二)講座	Trans-Apical Transcatheter Aortic Valve Replacement in a Dialysis Patient with Systolic Heart Failure.	Medicina (Kaunas). 2022 Feb 24;58(3):347.	Case Report
109	Nakamura M, Imamura T, Fukui T, et al.	内科学(第二)講座	Successful Management of Pheochromocytoma Crisis with Cardiogenic Shock by Percutaneous Left Ventricular Assist Device.	J Cardiovasc Dev Dis. 2022 Feb 27;9(3):71.	Case Report
110	Imamura T, Kinugawa K. et al.	内科学(第二)講座	Successful Conversion from Conventional Potassium Binder to Sodium Zirconium Cyclosilicate in a Patient with Refractory Constipation.	Medicina (Kaunas). 2022 May 3;58(5):635.	Case Report
111	Nakamura M, Imamura T, Oshima A, et al.	内科学(第二)講座	A Rescue Use of ECPELLA for Sepsis-Induced Cardiogenic Shock Followed by Mitral Valve Replacement.	Medicina (Kaunas). 2022 May 25;58(6):698.	Case Report
112	Imamura T, Hori M, Tanaka S, et al.	内科学(第二)講座	Change in Lung Fluid Volume during Exercise in Patients with Exercise-Induced Mitral Regurgitation.	Medicina (Kaunas). 2022 May 28;58(6):724.	Case Report

113	Imamura T, Izumida T, Hori M, et al.	内科学(第二)講座	Combination therapy using tafamidis and neurohormonal blockers for cardiac amyloidosis and a reduced ejection fraction: a case report.	J Int Med Res. 2022 Jul;50(7):3000605221078484.	Case Report
114	Tanaka S, Imamura T, Narang N, et al.	内科学(第二)講座	Case series of transcatherter edge-to-edge repair using MitraClip system with Impella mechanical circulatory support.	Eur Heart J Case Rep. 2022 Sep 7;6(9):ytac370.	Case Report
115	Kakeshita K, Imamura T, Onoda H, et al.	内科学(第二)講座	Impact of Goreisan upon aquaporin-2-incorporated aquaresis system in patients with congestive heart failure.	CEN Case Rep. 2023 Feb;12(1):73-77.	Case Report
116	Izumida T, Imamura T, Tanaka S, et al.	内科学(第二)講座	Experience with remote dielectric sensing (ReDS) for acute decompensated heart failure complicated by chronic obstructive pulmonary disease.	J Cardiol Cases. 2022 Aug 22;26(5):386-389.	Case Report
117	Nakamura M, Imamura T, Fukui T, et al.	内科学(第二)講座	Transcatheter closure of patent foramen ovale accompanying right-to-left shunt during Impella support.	J Artif Organs. 2022 Sep;25(3):262-265.	Case Report
118	Kakeshita K, Imamura T, Koike T, et al.	内科学(第二)講座	Acute Kidney Injury with Severe Metabolic Alkalosis Caused by Habitual Vomiting in an Alcohol Abuser with Pyloric Stenosis.	Intern Med. 2023 Apr 1;62(7):1031-1035.	Case Report
119	Imamura T, Kinugawa K. et al.	内科学(第二)講座	Initial experience of vericiguat add-on therapy upon fantastic four medical therapy in a patient with systolic heart failure.	J Cardiol Cases. 2022 Sep 15;26(6):429-431.	Case Report
120	Imamura T, Kinugawa K.et al.	内科学(第二)講座	Clinical insight of remote dielectric sensing-guided congestive heart failure management in outpatient clinic.	J Cardiol Cases. 2022 Sep 19;26(6):426-428.	Case Report
121	Imamura T, Kinugawa K.et al.	内科学(第二)講座	Combination Therapy Using Pemafibrate and Dapagliflozin for Metabolic Dysfunction-associated Fatty Liver Disease.	Intern Med. 2023 May 1;62(9):1371-1373.	Case Report
122	Nakamura M, Imamura T, Fukui T,et al.	内科学(第二)講座	Arrhythmogenic Right Ventricular Cardiomyopathy Accompanied by Chronic Myocarditis.	Intern Med. 2022 Oct 15;61(20):3063-3067.	Case Report
123	Imamura T, Kinugawa K. et al.	内科学(第二)講座	Effect of add-on sacubitril/valsartan on the left ventricular hypertrophy of a patient with hypertension.	J Int Med Res. 2022 Nov;50(11):3000605221138480.	Case Report
124	Izumida T, Kataoka N, Imamura T,et al.	内科学(第二)講座	Bail-out Ablation of Ventricular Tachycardia Electrical Storm in a Patient with a Durable Left Ventricular Assist Device.	Intern Med. 2023 Aug 1;62(15):2201-2204.	Case Report
125	Ueno H, Imamura T, Tanaka S, et al.	内科学(第二)講座	Left atrial appendage closure for stroke prevention in nonvalvular atrial fibrillation: A current overview.	J Cardiol. 2023 May;81(5):420-428.	Review
126	Ando T, Sakumura M, Mihara H, et al.	内科学(第三)講座	A Review of Potential Role of Capsule Endoscopy in the Work-Up for Chemotherapy-Induced Diarrhea.	Healthcare (Basel). 2022 Jan 24;10(2):218.	Review
127	Kato R, Oguri M, Tsubata S, et al.	小児科学講座	Clinical Significance of Fecal Calprotectin for Evaluating Mucosal Inflammation with IgA Vasculitis.	JMA J. 2022 Apr 15;5(2):277-279.	Case Report

128	Inomata S, Yoshida T, Nagaoka M, et al.	小児科学講座	Effects of long-term antenatal magnesium sulfate administration on the bone mineralization of preterm infants.	J Obstet Gynaecol Res. 2022 Dec;48(12):3119-3127.	Original Article
129	Adachi Y, Takizawa T, Futamura M, et al.	小児科学講座	Executive summary: Japanese Pediatric Guideline for the Treatment and Management of Asthma (JPGL) 2020.	Allergol Int. 2022 Oct;71(4):472-480.	Review
130	Masaya Aoki, Yuki Ikeno, Keijiro Ibuki,et al.	外科学(呼吸・循環・総合外科)講座	The mid-term outcome of interventricular septal hematoma after ventricular septal defect closure.	Asian Cardiovasc Thorac Ann. 2022 Sep;30(7):840-843.	Case Report
131	Shigeyuki Yamashita, Kanetsugu Nagao, Toshio	外科学(呼吸・循環・総合外科)講座	Mitral valve plasty in a patient with multiple cerebral cavernous malformations: A case report.	Clin Case Rep. 2022 Aug 26;10(8):e6290.	Case Report
132	Suzuki K, Yasuda T, Haruhara Y, et al.	整形外科・運動器学講座	BCOR-CCNB3 sarcoma arising in the proximal tibia: A case report.	Mol Clin Oncol. 2022 Apr;16(4):77.	Case Report
133	Ito H, Kameyama A, Furuta M, et al.	麻酔科学講座	Anesthetic Management Using Remimazolam for Transcatheter Edge-to-Edge Repair of the Mitral Valve in Patients With Reduced Ejection Fraction: A Case Report of Two Cases.	Cureus. 2022 Oct 26;14(10):e30706.	Case Report
134	Ito H, Kameyama A, Kawakami M, et al.	麻酔科学講座	Warfarin Reversal With Four-Factor Prothrombin Complex Concentrate for Left Ventricular Assist Device Conversion Surgery Monitored by TEG6s: A Case Report	Cureus. 2022 Aug 7;14(8):e27745.	Case Report
135	Yoji Uejima, Eisuke Suganuma, Kaede Matsunaga, et al.	臨床分子病態検査学講座	COVID-19-associated multisystem inflammatory syndrome and Kawasaki disease.	Pediatr Int. 2022 Jan;64(1):e15349.	Case Report
136	Yoji Uejima, Tsutomu Oh-Ishi, Isao Kitajima, et al.	臨床分子病態検査学講座	Purulent lymphadenitis due to Halomonas hamiltonii: a case report.	Int J Infect Dis. 2022 Dec;125:145-148.	Case Report
137	Suzuki K, Yasuda T, Haruhara Y, et al.	人間科学1講座	BCOR-CCNB3 sarcoma arising in the proximal tibia: A case report.	Mol Clin Oncol. 2022 Apr;16(4):77.	Case Report
138	Takaichi M, Fujiwara K, Nakamichi N, et al.	歯科口腔外科学講座	Cleft lip with ankyloblepharon filiforme adnatum: a case report.	Cleft Palate Craniofac J. 2022 Nov 14;10556656221138886.	Case Report

計138件

1　当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2　報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月（原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない）; 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
（出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月（オンライン掲載月）の後に（オンライン）と明記すること）。
記載例： Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec（オンライン）

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文（任意）

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計　件

（注）1　当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

（様式第 3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3　高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1)倫理審査委員会の開催状況

①　倫理審査委員会の設置状況	㊒・無
②　倫理審査委員会の手順書の整備状況	㊒・無
・　手順書の主な内容 富山大学医の倫理に関する規則 １目的及び設置　２所掌事項　３組織　４委員長　５議事等 ６課題審査　７申請手続及び判定の通知　８異議申立手続及び判定の通知 ９研究等実施計画の変更　１０専門委員会 等	
③　倫理審査委員会の開催状況	年１２回

（注）　1　倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に〇印を付けること。
2　前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

①　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	㊒・無
②　利益相反の管理に関する規定の整備状況	㊒・無
・　規定の主な内容 富山大学利益相反マネジメント規則－臨床研究部会 １臨床研究部会　２所掌事項　３組織　４部会長　５議事　６意見聴取等	
③　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年２回（本審査） １，０５４件(迅速審査)

（注）前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

①　臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年２０回
・研修の主な内容 2022年度第1回～第6回　富山大学研究倫理講習会 2022年度　臨床研究ビデオセミナー	

（注）前年度の実績を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

富山大学附属病院では，以下の全１９領域の専門研修プログラムを実施しています。

内科専門研修プログラム
小児科専門研修プログラム
皮膚科専門研修プログラム
精神科専門研修プログラム
外科専門研修プログラム
整形外科専門研修プログラム
産婦人科専門研修プログラム
眼科専門研修プログラム
耳鼻咽喉科専門研修プログラム
泌尿器科専門研修プログラム
脳神経外科専門研修プログラム
放射線科専門研修プログラム
麻酔科専門研修プログラム
臨床検査専門研修プログラム
病理専門研修プログラム
救急科専門研修プログラム
総合診療科専門研修プログラム
リハビリテーション科専門研修プログラム
形成外科専門研修プログラム

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2　研修の実績

上記研修を受けた医師数	１３３　　人

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診　療　科	役　職　等	臨床経験年数	
安田　一朗	内科	第三内科診療部門長	33 年	
吉田　丈俊	小児科	周産母子センター長	30 年	
清水　忠道	皮膚科	皮膚科長	36 年	
鈴木　道雄	精神科	精神科長	35 年	
芳村　直樹	外科	第一外科診療部門長	35 年	

川口　善治	整形外科	整形外科長	34 年	
中島　彰俊	産科婦人科	産科婦人科長	23 年	
林　篤志	眼科	眼科長	34 年	
髙倉　大匡	耳鼻咽喉科	講師	28 年	
北村　寛	腎泌尿器科	泌尿器科長	28 年	
黒田　敏	脳神経外科	脳神経外科診療部門長	36 年	
野口　京	放射線科	放射線科診療部門長	31 年	
廣田　弘毅	麻酔科	麻酔科　准教授	37 年	
仁井見　英樹	臨床検査科	輸血・細胞治療部長	24 年	
平林　健一	病理診断科	病理診断科長	21 年	
土井　智章	救急科	災害・救命センター長	23 年	
北　啓一朗	総合診療科	総合診療科　准教授	31 年	
服部　憲明	リハビリテーション科	リハビリテーション科長	29 年	
佐武　利彦	形成外科	形成外科長	33 年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4　医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

①　医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
②　業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
１）・研修の主な内容 新人病院職員を対象に「保険診療とＤＰＣ」と題し研修を実施。保険医療機関及びＤＰＣ病院並びに大学病院の職員としての使命感等を認識し、業務への理解を深めることを目的として実施。 ・研修の期間・実施回数 令和４年４月１日 ・研修の参加人数 93名 ２）・研修の主な内容 「正しい保険診療について-査定や減点のない、適正なレセプト作成のために-」と題し、外部講師による保険診療にかかる講習会を実施。保険診療への理解を深め、保険診療の質的向上と適正化に努めることを目的とする。 ・研修の期間・実施回数 令和４年９月15日 ・研修の参加人数 80名
③　他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

（注）1　高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

（注）2　「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

（様式第 5）

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	１．計画　②．現状
管理責任者氏名	林　篤志
管理担当者氏名	副病院長（診療担当）安田一朗、薬剤部長　加藤敦、医事課長　神田寛之 放射線部長　野口京、看護部長　丸池小百合、病院企画課長　日水栄

			保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院企画課	カルテ等（電子カルテを含む。）の病歴資料は、１患者１ファイル方式による永久一元番号で分類し、外来カルテは最終受診日から５年以上、入院カルテは退院日から１０年以上の保存を原則としている。また、電子カルテ情報は、持ち出しが必要な場合は、診療情報管理室で所定の様式に記載していただいた後、担当者で処理を行い、持ち出しの記録を明確にして管理している。
		各科診療日誌	看護部	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	医事課	
		看護記録	看護部	
		検査所見記録	医療情報・経営戦略部	
		エックス線写真	放射線部	
		紹介状	医事課	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医事課	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	杉谷地区事務部総務課職員支援室	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院企画課	
		高度の医療の研修の実績	病院企画課臨床研修チーム	
		閲覧実績	病院企画課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療支援課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課、薬剤部	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療支援課	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療支援課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療支援課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療支援課	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療支援課	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療支援課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療支援課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療支援課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療支援課	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療支援課	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療支援課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療支援課	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療支援課	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療支援課	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療支援課	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療支援課	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療支援課	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療支援課	
		医療安全管理部門の設置状況	医療支援課	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療支援課	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療支援課	
		監査委員会の設置状況	医療支援課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療支援課	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療支援課	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療支援課	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	病院企画課	
		職員研修の実施状況	医療支援課, 病院企画課	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	病院企画課	
		管理者が有する権限に関する状況	病院企画課	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務部総務課	
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務部総務課	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

（様式第6）

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1．計画　　(2.)現状
閲覧責任者氏名	杉谷地区事務部病院企画課長　日水　栄
閲覧担当者氏名	杉谷地区事務部病院企画課　課長補佐　酒井　文寿
閲覧の求めに応じる場所	杉谷地区事務部病院企画課
閲覧の手続の概要 原則として、提供先における利用目的、利用する業務の根拠法令、利用する記録範囲及び記録項目、利用形態等について書面を取り交わす。また、安全確保の措置を要求するとともに、必要があると認めるときには、提供前又は随時に実地の調査等を行い措置状況を確認し、その結果を記録するとともに、改善要求等を講ずる。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延　0　件
閲覧者別	医師	延　0　件
	歯科医師	延　0　件
	国	延　0　件
	地方公共団体	延　0　件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第１条の 11 第１項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
・ 指針の主な内容： 1. 病院における安全管理に関する基本的考え方 2. 医療安全の組織と体制に関する基本的事項 3. 安全管理に係る研修に関する基本方針 4. 医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6. 医療従事者と患者等との間の情報の共有に関する基本方針 7. 患者等からの相談への対応に関する基本方針 8. その他医療安全の推進のための必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無（ (有)・無 ） ・ 開催状況：年13回 ・ 活動の主な内容： 1. 病院において重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること。 2. 1号の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに病院職員への周知に関すること。 3. 2号の改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること。 4. 入院患者が死亡した場合における当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する医療安全管理部への報告の実施の状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。 5. 入院患者の死亡以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生したときにおける当該事象の発生の事実及び発生前の状況の医療安全管理部への報告の実施の状況に関する確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。 6. 4.5号に規定する実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための病院職員への研修及び指導に関すること。 7. その他医療安全管理及び医療事故に関すること。	

③　医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年4回

・　研修の内容（すべて）：

1. 新人病院職員研修
2. 春季医療安全管理等研修会
3. 医薬品・医療機器・医療安全に関する講習会
4. 医療安全講習会「医療界でのダブルチェックを再考し、効果的に活用しよう！」
5. 医療安全講習会「演題1 せん妄 対応×薬剤×予防」
   「演題2 みんながリエゾン。一歩先行くせん妄予防プログラム」
6. 医療安全講習会「医療安全活動報告会」

④　医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

・　医療機関内における事故報告等の整備　（ 有・無 ）
・　その他の改善のための方策の主な内容：

・コアメンバーミーティング(1回/週)では、週報をもとに事例の確認および対策の検討等を行う。

・医療安全管理部ミーティング(2回/月)では、重要事例や警鐘事例について、対策およびその周知方法等について検討する。

・重大事例や警鐘事例については、特別事例検討会・医療事故調査委員会等を通して、対策およびその周知方法等について検討する。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の11第２項第１号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

①　院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
・　指針の主な内容： 1. 病院における感染対策に関する基本的な考えかた 2. 感染対策の組織と体制に関する基本的事項 3. 感染対策に係る研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 病院感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者等に対する指針の閲覧に関する基本方針 7. その他感染対策の推進のために必要な基本方針	
②　院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
・　活動の主な内容： 1. 感染予防対策の確立に関すること。 2. 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。 3. 感染予防の啓発及び教育に関すること。 4. 感染に係る事故等の疫学調査及び事後措置に関すること。 5. 感染予防対策の評価及び改善に関すること。 6. 感染予防対策に係る情報の収集に関すること。 7. その他感染予防に関すること。	
③　従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年2回
・　研修の内容（すべて）： 1.新人病院職員研修 2.春季医療安全管理等研修会 3.院内感染対策講習会「感染制御と抗菌薬適正使用の重要性」 4.院内感染対策講習会「感染制御と抗菌薬適正使用の考え方」	
④　感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・　病院における発生状況の報告等の整備　（(有)・無　） ・　その他の改善のための方策の主な内容： 〇新型コロナウイルス感染対策 ・職員全員が飛沫感染対策指導を継続実施する。 ・入院患者の陽性者の早期発見を目的に、発熱者のPCR検査基準を作成し、実施した。 ・唾液検体でPCR検査を24時間対応できる体制を整えた。	

・エアロゾル感染対策として、入院患者にトイレの時もマスクを装着するように推進した。

〇感染対策向上加算に伴う医療機関との連携を強化
・新興感染症の発生等を想定した訓練を実施した。
・当院看護師・薬剤師が、連携病院のラウンドに赴き、感染対策のラウンドと指導を実施した。

〇クロストリディオイディスのアウトブレイク対策
・下痢症状患者を早期発見するため、看護師が経過表にブルストールの記録を推進した。
・患者に下痢症状が発生した時点から、接触感染対策を実施することをリンクナースに指導した。

〇手指衛生の推進
・患者1人当たり/日の手指消毒回数データを、毎月フィードバックする。
・MRSAアウトブレイクが発生した周産母子センターの手指衛生直接観察法を実施した。

〇TAZ/PIPCのAUD/DOTを低下させる。
・血液培養陽性患者の抗微生物薬治療に関して支援する。
・特定抗菌薬使用をモニタリングし、必要時支援する。
・長期抗菌薬使用患者をモニタリングし、必要時支援する。
・アクティブコンサルテーションを推進する。

〇血液体液曝露防止対策：翼状針による針刺し件数を減少させる対策の強化
・リンクナースが、各部署でOJTで指導を実施した。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の 11 第２項第２号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医薬品安全管理責任者の配置状況	(有)・無
②　従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回
・　研修の主な内容： 〇医薬品の有効性・安全性に関する情報，使用方法に関する事項 〇医薬品の安全使用のための業務に関する手順書に関する事項 〇医薬品による副作用等が発生した場合の対応（病院内での報告，行政機関への報告等）に関する事項の修正内容について（副作用報告フローチャート修正について） 〇麻薬事故発生時の対応（保存方法及び報告等のルール）に関する事項	
③　医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・　手順書の作成　（(有)・無　） ・　手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 〇医薬品の安全使用のための業務に関する手順書を，医療安全管理委員会の議を経て作成。 〇実施状況を部署責任者の協力を得て定期的に「医薬品業務確認リスト」に基づき確認。 〇確認結果を，医療安全管理委員会の議を経て，病院長に報告。	
④　医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・　医薬品に係る情報の収集の整備　（(有)・無　） ・　未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 〇未承認薬等に関する情報収集では海外での発売状況、当該疾患に関するガイドラインへの記載の有無、症例報告、論文等の情報を収集する。（臨床倫理委員会での審査資料等を参考にする） ・　その他の改善のための方策の主な内容： 〇薬剤部医薬品情報室の機能を駆使して，医薬品の添付文書の情報のほか，医薬品製造販売業者，PMDA及び学術誌等からの情報を広く収集・管理する。 〇得られた情報のうち必要なものを当該情報に係る医薬品を取り扱う病院従業者に，迅速かつ確実に周知徹底を行った後、全職員に対し情報の周知を行い、確認報告書を記載・提出させる。 〇病院内に臨床倫理委員会を設置し、薬剤部及び医療安全管理部と連携し未承認薬（未承認新規薬剤を除く）、適応外・禁忌使用薬剤及び院内製剤についての申請及び審査機能を強化し情報の共有を行う。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の 11 第２項第３号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
②　従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年110回
・　研修の主な内容：新規導入時研修会、定期研修会、臨時研修会として下記の医療機器に関連する研修を実施。 １．人工心肺装置及び補助循環装置 ２．人工呼吸器 ３．血液浄化装置 ４．除細動装置（AEDを除く。） ５．閉鎖式保育器 ６．診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等） ７．その他医療機器	
③　医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・　医療機器に係る計画の策定　（有・無　） ・　機器ごとの保守点検の主な内容：中央管理機器は貸出返却ごとの点検実施。その他医療機器は日常点検、始業点検（使用前）、使用中点検、定期点検を実施している。特に保守点検が必要と考えられている下記の機器をはじめ、機器の危険度などを考慮し実施している。 １．人工心肺装置及び補助循環装置 ２．人工呼吸器 ３．血液浄化装置 ４．除細動装置（AEDを除く。） ５．閉鎖式保育器 ６．X線CT装置 ７．診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器） ８．磁気共鳴画像診断装置（MRI装置） ９．その他機器	
④　医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・　医療機器に係る情報の収集の整備　（有・無　） ・　未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： １．リハビリテーション科　経頭蓋直流電気刺激装置　対象：健常人 ２．脳神経内科　直流電気刺激装置(tDCS)　対象：多発性硬化症・視神経脊髄炎・パーキンソン病 ３．第二内科　Remote Dielectric Sensing（電磁式胸水最測定器）　対象：うっ血性心不全 ４．病・耳鼻咽喉科　頭部傾斜適正化装置（TPAD）　対象：慢性めまい 未承認医療機器については、関係部署より申請された機器の情報収集を行っている ・　その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器の安全使用に必要な周知事項については、諸会議（医療安全管理委員会、セーフティマネージャー会議等）で周知している。更に、必要に応じてCE Letterや電子カルテ掲示板でも通知している。 病院内で使用する医療機器（研究用も含む）の購入やレンタル開始時に、経理調達課と協力し、納入業者より事前に機器情報等の収集を行い、機器登録を行ったうえで使用場所へ納品する。この流れの中で医療機器管理センターから導入時研修の必要性の有無確認や開催に繋げている。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第９条の２０の２第１項第１号から第１３号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	(有)・無

・責任者の資格（医師・歯科医師）
・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況

〇平成28年7月20日に医療安全管理指針を改正し、医療安全管理責任者を配置した。医療安全管理責者は、医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括することを定めた。

② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有)（3名）・無

③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況

・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況

（1）医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び見直し

（2）医薬品の業務手順に基づく業務の実施・確認

（3）病院従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施

（4）医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集、その他医薬品の安全確保を目的とした改善のための方策の実

施

（5）医薬品の安全使用のための業務に資する医薬品に関する情報の整理、周知及び当該周知の状況の確認

・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況

未承認等の医薬品の使用に関し、当該未承認等の医薬品の使用の状況の把握のための体系的な仕組みの構築並びに当該仕組みにより把握した未承認等の医薬品の使用の必要性等の検討の状況の確認、必要な指導及びこれらの結果の共有

・担当者の指名の有無（(有)・無）

・担当者の所属・職種：

（所属：薬剤部　，職種　薬剤師　）	（所属：　，職種　）
（所属：　，職種　）	（所属：　，職種　）
（所属：　，職種　）	（所属：　，職種　）
（所属：　，職種　）	（所属：　，職種　）

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有)・無
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無　（(有)・無　） ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： 〇「富山大学附属病院インフォームド・コンセントに関する要項」に基づき実施している。 〇説明者氏名、患者氏名及び同席者氏名の診療録への記載、質問の回答や患者及び同席者の反応などを、診療録等に記載することについて指導を行っている。	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有)・無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 〇患者基本情報として、主訴・現病歴の記載。 〇毎日、医師記録、看護記録が記載されている。 〇入院から退院までの診療内容の要点の適切な記載。 〇手術記録の適切な記載。 〇その他のスキャンされた医療文書についての適切な作成。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	(有)・無
・所属職員：専従（4）名、専任（0）名、兼任（25）名 うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（10）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（4）名 （注）報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： 1. 富山大学附属病院医療安全管理委員会（以下「委員会」という。）に係る事務。 2. 事故その他の管理室において取り扱うことが必要なものとして病院長が認める事象が発生した場合における診療録その他の診療に関する記録の確認,患者又はその家族への説明，当該事象の発生の原因の究明の実施その他の対応の状況の確認及び当該確認の結果に基づく従業者への必要な指導。 3. 医療に係る安全管理に係る連絡調整。 4. 医療に係る安全確保のための対策の推進。 5. 医療安全の確保に資する診療状況のモニタリング。（画像・病理診断レポート、手術室オカレンス、塞栓症、血栓症等） 6. 全病院職員に対する医療安全に係る教育・研修の立案,実施及び認識状況の確認。 7. 各部署における医療安全対策の実施状況の評価に基づき，医療安全確保のための業務改善計画書を作成し，それに基づく医療安全対策の実施状況及び評価結果の記録。	

8. 委員会との連携状況，医療安全に係る職員研修の実績，その他の医療安全管理者の活動実績の記録。
9. 医療安全対策に係る取組の評価等を行うカンファレンスの実施。
10. その他医療の安全管理に関すること。

※　平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※　医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦　高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（3 件）、及び許可件数（3 件）

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ）

・活動の主な内容：

〇高難度新規医療技術の提供の適否等に関すること。

〇高難度新規医療技術が適正に提供されているかどうかを確認すること。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有・無 ）

⑧　未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（0 件）、及び許可件数（0 件）

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ）

・活動の主な内容：

〇未承認新規医薬品等の使用の適否等に関すること。

〇未承認新規医薬品等が適正に使用されているかどうかを確認すること。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無　（ 有・無 ）
⑨　入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況
・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年　282　件 ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年　139　件 ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 〇重大なインシデントに係る調査及び対策に関すること。 〇医療事故対応の意思決定・報告・公報に関すること。 〇全死亡症例の確認に関すること。
⑩　他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況
・他の特定機能病院等への立入り（ 有（病院名：東北大学病院）・無） ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ 有（病院名：高知大学医学部付属病院）・無） ・技術的助言の実施状況 「高難度新規医療技術施行後のモニタリングや有害事象が生じた場合などに、電子カルテ上で高難度新規医療技術であることが分かるようなシステムを活用されると効率化が図れるのではないかと思われる」との技術的助言に関して、システム改修については困難であるため、次期システム改修時に機能追加について検討することとなった。
⑪　当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況
・体制の確保状況 〇医療福祉サポートセンターを設置している。
⑫　職員研修の実施状況
・研修の実施状況 1.　承認要件に係る講習会 2.　医療安全講習会「医療界でのダブルチェックを再考し、効果的に活用しよう！」 3.　医療安全講習会「演題1 せん妄 対応×薬剤×予防」 「演題2 みんながリエゾン。一歩先行くせん妄予防プログラム」 4.　医療安全講習会「医療安全活動報告会」

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1

日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
・研修の実施状況 〇管理者　令和 4 年 11 月 21 日　受講済 （公益財団法人 日本医療機能評価機構 「2022 年度 特定機能病院管理者研修」） 〇医療安全管理者　令和 4 年 11 月 11 日　受講済 （公益財団法人 日本医療機能評価機構 「2022年度 特定機能病院管理者研修」） 〇医薬品安全管理責任者　令和 5 年 2 月 2 日　受講済 （公益財団法人 日本医療機能評価機構 「2022 年度 特定機能病院管理者研修」） 〇医療機器安全管理責任者　令和 5 年 1 月 16 日　受講済 （公益財団法人 日本医療機能評価機構 「2022 年度 特定機能病院管理者研修」）

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況
・第三者による評価の受審状況 日本医療機能評価機構による病院機能評価を 2019 年 1 月 28 日～30 日に受審 2024 年 1 月　同機構による病院機能評価を受審予定 ・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況 2021 年 11 月 1 日　富山大学附属病院 HP の専用ページにて公表 ・評価を踏まえ講じた措置 2019 年 8 月 9 日　条件付認定（認定開始日 2019 年 2 月 15 日） 2021 年 6 月 25 日　認定継続（改善審査日 2021 年 5 月 13 日） 2021 年 9 月　　期中の確認として「自己評価シート」を機構に提出

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第７条の２の２第１項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

・ 基準の主な内容

１．人格が高潔で学識に優れ，地域及びグローバルな視野を持ち，大学の教育，研究，社会貢献の使命を達成できる者

２．富山大学の理念を踏まえ，中長期的な目標に向かって部局としての具体的な構想を示し，強いリーダーシップをもって，その計画を実現できる者

３．附属病院又は附属病院以外の病院での組織管理経験，高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質・能力及び経営改善能力等，病院の管理運営に必要な資質・能力を有しているもの

４．医療安全管理業務の経験並びに医療安全を第一に考える姿勢及び指導力等，医療安全確保のためにひつような資質・能力を有している者

５．附属病院の理念である大学病院としての使命を認識し，病める人の人権や個性を重視した信頼される先進医療を行うとともに，専門性を総合性を合わせ持つ将来の医学発展を担う医療人の育成に積極的に取り組むことができる者

６．県内唯一の医育機関及び特定機能病院としての取り組みや地域がん診療連携拠点病院，地域周産母子医療センター等としての取り組みを通じて，富山県における地域医療の中核的役割を果たすことができる者

・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ）

・ 公表の方法

富山大学ホームページへの掲載

規則第７条の３第１項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・無

・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ）

・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ）

・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ）

・ 公表の方法

富山大学ホームページへの掲載

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長（○を付す）	選定理由	特別の関係
北島　勲	理事・副学長	○	選考会議内規第 3 条第 1 項第 1 号に基づく学長が指名する理事	有・無
関根　道和	医学部長		選考会議内規第 3 条第 1 項第 2 号に基づく役職指定	有・無
絹川　弘一郎	医学部医学科に専任配置される教員		選考会議内規第 3 条第 1 項第 3 号に基づき医学部教授会から選出	有・無

戸邉　一之	附属病院の教職員		選考会議内規第 3 条第 1 項第 4 号に基づき附属病院運営会議から選出	(有)・無
丸池　小百合	附属病院の教職員		選考会議内規第 3 条第 1 項第 4 号に基づき附属病院運営会議から選出	(有)・無
有賀　玲子	富山県厚生部長		選考会議内規第 3 条第 1 項第 5 号に基づく学長が委嘱する学外有識者。富山県の医療行政に係る責任者として，保健・医療・福祉全般に豊富な知見を有しているため	有・(無)
馬瀬　大助	公益社団法人富山県医師会長		選考会議内規第 3 条第 1 項第 4 号に基づき附属病院運営会議から選出	有・(無)

規則第９条の２３第１項及び第２項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無

・合議体の主要な審議内容
　病院の運営方針に関する重要事項、病院の予算及び収支状況、医療安全に係る重要事項、諸規則の改正等

・審議の概要の従業者への周知状況
　富山大学附属病院連絡会議に各部署の代表者が出席し，その代表者が部署内の職員に周知している。

・合議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ）
・公表の方法
　富山大学ホームページへの掲載

・外部有識者からの意見聴取の有無（ 有・無 ）
　令和5年度より，本院の運営状況や地域医療の活動状況等について，外部有識者から助言を頂く場として，富山大学附属病院運営協議会を設置した。

合議体の委員名簿

氏名	委員長（〇を付す）	職種	役職
林　篤志	〇	医師	病院長
関根　道和		医師	医学部長
松谷　裕二		薬剤師	薬学部長
早川　芳弘		薬剤師	和漢医薬学総合研究所長
戸邉　一之		医師	糖尿病代謝・内分泌内科長
猪又　峰彦		医師	呼吸器内科長
絹川　弘一郎		医師	循環器内科長，腎・高血圧内科長
安田　一朗		医師	消化器内科長
渡邊　賢治		医師	炎症性腸疾患内科長
佐藤　勉		医師	血液内科長
清水　忠道		医師	皮膚科長
今井　千速		医師	小児科長
鈴木　道雄		医師	神経精神科長
辻井　農亜		医師	こどものこころと発達診療科長
野口　京		医師	放射線診断科長
齋藤　淳一		医師	放射線治療科長
深原　一晃		医師	心臓血管外科長
芳村　直樹		医師	小児循環器外科長
土谷　智史		医師	呼吸器外科長
藤井　努		医師	消化器外科長
松井　恒志		医師	乳腺科・内分泌外科長

吉岡　伊作		医師	小児外科長
黒田　敏		医師	脳神経外科長
秋岡　直樹		医師	脳血管内治療科長
赤井　卓也		医師	小児神経外科長
川口　善治		医師	整形外科長
中島　彰俊		医師	産科婦人科長
島　友子		医師	小児婦人科長
森田　由香		医師	耳鼻咽喉科長
北村　寛		医師	泌尿器科長
佐武　利彦		医師	形成再建外科・美容外科長
髙澤　知規		医師	麻酔科長
野口　誠		医師	歯科口腔外科長
貝沼　茂三郎		医師	和漢診療科長
中辻　裕司		医師	脳神経内科長
高村　昭輝		医師	総合診療科長
山本　善裕		医師	感染症科長
土井　智章		医師	救急科長
服部　憲明		医師	リハビリテーション科長
平林　健一		医師	病理診断科長
仁井見　英樹		医師	検査・輸血細胞治療部長
髙岡　裕		医師	医療情報・経営戦略部長
吉田　丈俊		医師	周産母子センター長
林　龍二		医師	臨床腫瘍部長
長島　久		医師	医療の質推進部長, 医療安全管理部長
加藤　敦		薬剤師	薬剤部長
丸池　小百合		看護師	看護部長
岩城　稔		事務	杉谷地区事務部長
中條　大輔		医師	臨床研究管理センター教授
寺元　剛		薬剤師	臨床研究管理センター特命教授

規則第１５条の４第１項第１号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限
・　管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（　有・無　） ・　公表の方法 富山大学ホームページへの掲載 ・　規程の主な内容 管理者が、病院の管理・運営に必要な指導力を発揮できる内容となっている。 ・　管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割 副病院長　８名 経営・救急補佐，診療・接遇・薬事・働き方改革，教育，研究，救急， 医療安全・医療の質・機能評価，看護，広報・研修・事務 病院長補佐　８名 経営，診療・働き方改革，教育，研究，包括的脳卒中センター，総合がんセンター， 薬事，医療の質 ・　病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況 国立大学病院長会議主催の病院経営次世代リーダー養成塾に参加

規則第１５条の４第１項第２号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	有・無

・監査委員会の開催状況：年２回

・活動の主な内容：

〇医療安全管理責任者、医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務の状況について、病院長から報告を求め、又は必要に応じて確認を行う。

〇学長又は病院長に対し、必要に応じて医療に係る安全管理についての是正措置を講じる。

〇実施結果を公表する。

・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ 有・無 ）

・委員名簿の公表の有無（ 有・無 ）

・委員の選定理由の公表の有無（ 有・無 ）

・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ）

・公表の方法：

〇本学のホームページで公表

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長（〇を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
高村　博之	金沢医科大学病院	〇	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・無	1
木下　実	木下法律事務所		法律に関する識見を有する者	有・無	1
三善　郁代	富山県立大学看護部		医療を受ける者	有・無	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第１５条の４第１項第３号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況
・体制の整備状況及び活動内容 　国立大学法人富山大学コンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス委員会を年２回程度開催しており、「役職員のためのコンプライアンスの手引き」の策定・啓蒙や、コンプライアンスに関する研修会の企画・立案を行っている。 ・ 専門部署の設置の有無（ 有・無 ） ・ 内部規程の整備の有無（ 有・無 ） ・ 内部規程の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 　富山大学ホームページへの掲載

規則第１５条の４第１項第３号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況

・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況
　国立大学法人富山大学役員会を設置し、附属病院の教員人事、予算について審議を行う等病院の運営状況を監督している。

・ 会議体の実施状況（　年26回　）

・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有・無 ）（　年　回　）

・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ）

・ 公表の方法
　富山大学ホームページへの掲載

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：

会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 （○を付す）	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

（注）　会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第１５条の４第１項第４号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有・無 ） ・通報件数（年０件） ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ 有・無 ） ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有・無 ） ・周知の方法 医療安全講習会で周知している。また、全職員に配布済みの「医療安全・感染対策マニュアル（ポケット版）P66 に掲載し、職員に対し周知させている。

（様式第 7）

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1　果たしている役割に関する情報発信

①　果たしている役割に関する情報発信の有無	(有)・無
・情報発信の方法、内容等の概要 院内情報誌である「かわら版」を定期的に発行し、患者様のみならず、関連する地域の関連病院へ配布し、本院で実施している先進的な医療等の情報を常に発信している。	

2　複数の診療科が連携して対応に当たる体制

①　複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	(有)・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 痛みセンター、膵臓胆道センター、がんゲノム医療推進センター、乳がん先端治療・乳房再建センター、総合がんセンター、ジェンダーセンター，こども医療センター，IBDセンターを設置し、診療科をまたいで横断的に治療を行っている。	